ヌエバ
NUEVA

革新の42枚パネル

日本リーグ唯一の公式試合球

あなたなら、どうたたかう・・・

国際公認球　検定球

42H301WBK
42H201WBK・WR
●手縫い●天然皮革●42枚パネル

SBHB作戦盤

検定球

HSH1
●手縫い●天然皮革●1号球

小学校試合球

国際公認球　検定球

42H310WBK・42H210WBK/WR
●手縫い●天然皮革●42枚パネル

全国中学校大会試合球

株式会社 モルテン

東京本社　東京都墨田区横川5丁目5番7号　TEL(03)3625−7581(代)
東京・大阪・名古屋・福岡・広島四国・仙台・札幌・リノUSA・デュッセルドルフG

巻頭言

レフェリーの資質向上を目指して

㈶日本ハンドボール協会常務理事
斉藤　実

ハンドボールの強化・普及とレフェリングは切り離して考えることは出来ない。プレーヤーがルールの中で許されるスピーディーでパワフルなプレーを習得しても、レフェリーが認めないならば、技術開発の意欲を阻害し技術は発展しない。ハンドボールの持つテクニック、パワー、スピードをコート一面に発揮させるならば、ハンドボールは素晴らしいスポーツであることを多くの人が認めることになり、ファンの増大・普及に大いに貢献できるだろう。

先に行われた男子世界選手権熊本大会の盛況は、日本人とハンドボールは本質的には波長が合うことを証明しているのではないか。私達は日本リーグや各種大会での観客の不入りを、日本では当然と考えがちであったが、そうではなさそうだ。ならば何故不入りが続くのだろうか。やはり国内の大会ではおもしろさを十分に味わえないということか。そうであるならばその責任の一端は、戦術的におもしろさを作るトレーナーとそれを効果的に運営するレフェリーにあると考えねばならない。

熊本での盛況は会場に展開されるハンドボールのおもしろさが、十分発揮されたからであることは間違いない。そのおもしろさは、プレーヤーの努力は勿論であるが、レフェリーのゲーム運営能力の高さも大きな要素であった。日本からも1ペア参加したが、残念ながら決勝トーナメントではチャンスを与えられなかった。

また、先のIHFニュースで、世界トップレフェリーがPRCから発表されたが、残念ながら日本は指名されなかった。このことは日本レフェリー界への警告と謙虚に受け止め、一致団結してレフェリーの資質向上を図る必要がある。

そこで、レフェリーとトレーナー及びプレーヤーが共に学ぶ場として、昨年初めてトップレフェリー研修会を持った。一つの起爆剤にはなったようである。

レフェリーも一朝一夕で作り上げることは出来ないが、日本レフェリーのレベルアップのためにも、平成11年度に計画している審判部の主な方針を示す。

◎公認A級審判審査のモデルを実業団選手権とし、研修期間を設ける。

従来大学新人戦、全日本教職員大会等を利用させていただいたが、A級は日本リーグを吹くということからモデルレベルをあげ、受験後10試合の研修期間を設けて合格認定をすることにした。合格してしまえばOKではない。

◎レフェリー評価・指導対象を増加し、より多くのレフェリーと接する機会を増やす。

昨年度審査指導委員の大会参加は、インターハイと全日本総合であった。これでは指導する範囲が狭く、隠れた逸材発見もできない。来年度はこれを増やし、その中で優秀なレフェリーを全日本総合選手権に推薦する。巧ければ全日本総合で吹ける。

◎トップレフェリー研修会の定着化

レフェリー、トレーナー、プレーヤーによる研修会の継続。

◎レフェリーコースの継続

継続を疑問視する方もいるが、若手で素質のある者の発見は早めたいし、語学教育の時間も取れるであろう。好素材の今後の教育方針を確立しなければならない。

国際審判員の道が待っている。

協会だより

平成10年12月度常務理事会

【日　時】12月23日(水)13時00分～17時00分

【場　所】グリーンアリーナ神戸　研修室

【出席者】

中澤副会長、市原専務理事、常務理事8名、事務局2名

■総務本部関連事項

1　「がんばれハンドボール10万人会」募集パンフレットについて

ファミリー・グランド会員募集パンフレットについて検討。

2　日本協会事業概要パンフレット作成について

協賛依頼のために日本協会事業内容を説明する資料としてのパンフレットを検討。広告協賛パンフレットに併用することとした。

3　日本協会主催大会協賛依頼パンフレットについて

日本協会主催大会協賛依頼パンフレット内容について検討した。協賛企業には感謝状を贈ることを検討することとした。事業関係の広告協賛担当役員を了承した。

4　平成10年度読売スポーツ賞決定に伴う日本協会特別功労表彰の検討

今年度貢献のあったチーム、個人（選手・ドクター・トレーナー）に対し、表彰の枠を拡大して表彰することを承認。各担当部より推薦することとした。

■競技本部関連事項

1　ワールドゲームズについて

2001年秋田県で開催のワールドゲームズ、ビーチハンドボール競技の実施についてビーチハンドボール委員会を設置して、競技規則の発行、競技用具の開発、選手・役員の登録、ナショナルチームの育成等検討することとした。また、本大会に向けチーム編成、大会要項、実行予算等を検討することとした。

2　国体運営委員会報告について

国民体育大会に着用するユニフォームのチーム名について、県名のみで企業名は袖以外に認めていないとの指摘を受けた。都道府県協会に伝達することとした。

指導者は公的資格を義務付けるよう日体協より要請があり、資格取得を今後も継続して推進していくこととした。

3　平成11年度一般登録規程（案）について

登録金並びに新登録制度をふまえ、平成11年度登録規程改正案を検討。登録用紙、及び用紙の流れ、登録証（旧選手証）の一部変更について報告。全国理事会で結審することで了承。

4　懲罰規程（案）について

懲罰規程改正案を検討、了承した。

5　その他

機関誌寄稿原稿について検討。

■報告事項

[総務本部]

1　平成11年度事業計画及び事業予算作成について

予算策定の目安として、前年度比10パーセント減で作成依頼がなされた。

2　文部省への寄付行為改定書類提出の結果について

寄付行為改定書類の提出結果について報告があり、名誉役員の項を除き変更を承認。規程集の作成依頼があった。

3　新監査人就任報告

[強化事業本部]

1　強化部

男子ナショナルチームコーチ解任報告。

アジア大会結果報告。女子チームは、'99年世界選手権大会出場権を獲得。

全日本総合大会のNHK放映解説者に野田強化委員長を了承。

2　日本リーグ

男子加盟チームの日本リーグ辞退について報告。平成11年度は、2部より、2チームを昇格させ、1部8チームとして実施。

㈱モルテンより32面体ボールの新製品紹介があり、日本リーグで活用する方向であることの報告があった。

3　その他

㈱モルテンより、ゴール、ゴールネットの検定業者申請があり、検定委員会の検定結果を待って認定することとした。

新会員登録制度がスタート

日本ハンドボール協会では、平成11年度より新会員登録制度をスタートさせます。これは、スポーツ競技は競技者のみでなく、審判、運営役員、ボランティアに加え、競技を応援する観衆とが相まってスポーツの感動と興奮を分かち合い、スポーツ文化を構築するといった全員参加の理念によるものです。これによって、ハンドボール人口10万人以上を目指し、ハンドボールの文化的価値を高め、メディアバリューを上げ、ハンドボールのメジャー化を目指そうというものです。

この制度は、①特別会員、グランド会員、ファミリー会員の支援会員、②日本協会並びに加盟団体役員・委員などの会員、③審判、④指導者、⑤競技者の登録から成り立っております（表1参照）。

特別会員の募集対象としては、ハンドボールを応援する団体、または個人としています。グランド会員とは、旧賛助会員をイメージして設定されました。ファミリー会員は、広くハンドボールファンを対象としています。この支援会員は、ハンドボール競技の応援競技者として位置付けられ、ハンドボールの盛り上がりに重要な役割をもつ会員といえます。日本協会では、この会員を含め10万人のハンドボール登録人口を目指すことを目標にし、「がんばれハンドボール10万人会」としてスタートさせることになりました。

現在、この「がんばれハンドボール10万人会」としての企画に、世界選手権等のビデオ鑑賞会、日本リーグ観戦後の交流会、海外の大会へ観戦ツアーの企画、会員チーム同士の交流試合、オールドファン同士の11人制大会の企画、ハンドボールのメジャー化を語る会、車椅子ハンドボールの支援、ちびっ子チームの指導と応援などの色々な企画が提案されております。この様な交流を通じてハンドボール文化を益々高めていくための重要な会員と位置付けております。

次に日本協会では従来の役員賛助会を昨年から役員登録に変更して、登録費を支払うこととしております。平成11年度からは、加盟団体役員並びに日本協会各委員会役員にも登録費をお願いすることになっています。各加盟団体におかれましては、ご協力の程よろしくお願いいたします。

審判登録に関しましては、従来の登録費を一体化し、全員参加の理念の元、全登録レフェリーに登録金をお願いすることとなりました。

また、ベンチを預かる監督・コーチなど指導者などにも、全員参加の理念により登録金をお願いすることとなりました。これはチーム登録時に行う選手登録と同時に行われます。

この制度は、先にもご説明したとおり、全員参加の理念によるハンドボール文化の構築が目的として始められました。しかしながら、皆様よくご存知とは思いますが、現在の経済状況のなか、中村荷役の休部、日新製鋼などの日本リーグ撤退など、企業チームがリストラを始めています。これらの企業は、日本協会の財源確保に多大な貢献をしてこられました。また、機関誌巻頭言に殿水財務担当理事が述べられているように、現状の事業を維持して行くだけで数千万円の財源確保が必要となります。協会便りにもあるように平成11年度は、前年対比で10%カットの事業予算組が要請されています。

この様な状況の中で、この制度は大きな力とはなりませんが、財源確保の一部となります。現状の社会情勢の中では、ハンドボール人自身が先ずハンドボールを支えなければ成りません。この新会員登録制度の完全実施に、ご協力をお願いいたします。

登録金払い込みは、支援会員と審判登録費に関しては、各会員の払い込み手間を省くため銀行口座自動引き落としを設定させていただきました。

（表1）新会員登録・登録金表

がんばれハンドボール10万人会

区　分	年会費	対　象	特　典	募集口数
特別会員	¥50,000	個人、団体（一口）	機関誌　会員バッチ、パスカード　感謝状（5）　遠征帯同	100
ファミリー会員	¥ 3,000	一般募集	会員バッチ、ペアチケット1枚　感謝状（30）　遠征帯同	20000
グランド会員	¥10,000	一般募集	機関誌　会員バッチ、パスカード　感謝状（10）　遠征帯同	200

※）募集経費として1件につき500円を加盟団体に還付
会員期間はその年度の4月1日から翌3月31日までとする。
パスカードは日本協会主催大会が無料で観戦できます。感謝状の（　）は継続年数です。遠征帯同は抽選です。

運営役員登録

区　分	登録費	対　象	特　典	口　数
役員A	¥300,000	日本協会会長	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員B	¥200,000	日本協会副会長	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員C	¥100,000	日本協会事務理事	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員D	¥ 40,000	日本協会常務理事・監事	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員E	¥ 20,000	日本協会理事・参事・評議員	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員F	¥ 10,000	日本協会顧問・参与・加盟団体正副会長	機関誌　会員バッチ、パスカード	
役員G	¥ 2,000	日本協会委員・加盟団体役員	会員バッチ、	

※）役員での重複登録者は上額登録料の支払いのみとする
パスカードは日本協会主催大会が無料で観戦できます。

審判登録

区　分	登録費	対　象	特　典	口　数
国際審判	¥4,000	国際審判員	遠征帯同	
審判	¥2,000	公認審判員	遠征帯同	

※）事務手数料として1件につき300円を都道府県協会に還付
遠征帯同は抽選です。
◎運営役員、審判、監督・コーチ、競技者の重複登録者はそれぞれの区分で支払うものとする。

第15回男子世界学生選手権大会報告

選手団チームリーダー　福地　賢介
（全日本学連理事長・協会強化委員）

第15回男子世界学生ハンドボール選手権大会は、1998年12月28日より1999年1月5日まで、ユーゴスラビア連邦共和国ノヴィサト市にて開催された。

日本は前回の6位以上を目標に戦ったが、予選リーグでの2試合（ポルトガル・グルジュア）を引き分けとし、5～6位・7～8位の順位決定予備戦に回り、予備戦でブラジルに惜敗して、7～8位決定戦でウクライナと対戦、チーム一体となっての勝利の執念がGK高木の好守を呼んで24対24で延長戦にはいった。延長後半に2得点をあげ、ウクライナの攻撃を高木の再三にわたるファインプレーで1点に抑え、28対27で勝利し、前回の順位を一つ下げたが何とか7位を確保した。

優勝は予想通り、第一シード同士の予選リーグA組のユーゴスラビア、B組のハンガリーが予選リーグ、準決勝戦を勝ち上がっての争いとなったが、予選リーグの勝ち方や実際に対戦（ハンガリーとは練習試合でブダペストで対戦）した両チームを比較すると、ハンガリーには、前回最優秀選手に選ばれたGKのZolten はじめ、ポストのRosta、サイドのNorbert等前回メンバー5名が残っており、前回とはメンバーが一新されたユーゴスラビア（同国代表が3名いると言われていた）は、準決勝戦の対ロシア戦で、残り3分まで2点リードされて、敗色濃かったゲームをエースKrivokapicの同点打から連続加点し、やっと勝ち上がった事、また、この試合でKrivokapicが怪我をして、決勝戦に出場できない事態となった事などから、ハンガリーがやや有利かと思われた。

しかし、ユーゴスラビアは開始早々に、Nikolic（今大会の優秀選手）のポストシュートが決まり先行、その後も7mなどを決めペースを掴んで、その後も、ロング、サイド、ポストシュート、速攻を織り混ぜた多彩な攻撃を見せて、前半を8点差で折り返し、前半の終了間際から、ハンガリーもRostaのポストシュートや、Norbertのサイドシュートが決まり出し必死に追い上げを図るが、それをうまく交わし34対25で初優勝を飾った。

ユーゴスラビアは、エース欠場の穴を十分に補える選手層の厚さと、攻守のバランスの良さが目立ったが、ジコビッチヘッドコーチの采配と、その意をゲームで十二分に発揮させたGolicのゲームメイクも光っていた。

敗れたハンガリーも前半15分過ぎから立ち直り、以後、一進一退で進んだが、焦りも手伝い空回りの部分もあって、立ち上がりの失点が大きく、連続優勝を逃した。

12月10日に最終ミーティングを終わらせ、11日、強化合宿のためにフランクフルトへJL407便で出発。12日から18日までをスポーツシューレーを起点にして、トレーニング、ゲーム（4試合）で強化合宿を行ったが、この合宿からケルン大学留学中の松井総合コーチが合流している。また、デンマークからも留学中の田中守福岡大学監督が激励とアシストのために元気な姿を見せてくれた。

19日に、調整合宿のためにハンガリーに移動。27日までトレーニング、ゲーム（ハンガリージュニア、ハンガリー学生選抜、Tokolの3試合）で調整に入り、27日、10時20分にバスで大会開催地であるユーゴスラビアのノヴィサト市に向かった。

何時まで続くのかと思われるような雪原の中の道路を、休憩時間を含め6時間半をかけての道のりであったが、16時10分、無事ノヴィサトに到着。IDカード発行手続きその他を行い、28日、選手の最終エントリー・テクニカルミーティング・開会式・オープニングゲーム（ユーゴスラビア対ポルトガル）で大会が開始された。

1998年11月25日の抽選会時点では、ユーゴスラビア、ハンガリー、サイプラス、ルーマニア、中華台北、ウクライナ、ロシア、グルジュア、トルコ、アルジェリア、日本、ブラジル、ポルトガル、ラトビア、フランス、ベラルーシ、ナイジェリアの17ケ国が参加予定であったが、大会直前に参加辞退が出て9ケ国となった（ナイジェリアは開会式には出席できないが、本大会には出場との事でプラカード及び国旗の行進まであった）。

このため10ケ国による再抽選が行われて、A組＝ユーゴ・トルコ・日本・グルジュア・ポルトガル、B組＝ハンガリー・ロシア・ブラジル・ウクライナ・ナイジェリアの予選リーグの組み替えが行われたが、結局ナイジェリアの到着がなく、B組は4ケ国となった。

大会本部からは参加国の不参加・取り止め事情や再抽選の具体的な公式事情説明はなかったが、地元の新聞やテレビ報道で今大会に日本が参加している事を知って、練習会場まで訪ねてきてくれた、ヨハネ高橋啓介牧師（難民救済活動のため所属する教会から派遣されノヴィサト市に居住している唯一人の日本人）の話によると、新聞やテレビなどの報道から推し、12月20日過ぎにコソボ自治州にお

ける砲撃再開があり、最悪の場合、空港閉鎖、その他の事態を考慮して、参加を取り止めた国も出たのではないかとの事であった。実際、日本も1998年9月下旬の時点では、外務省の出している渡航危険度指数が「5」（一番危険な区域指数で渡航禁止）となっていて、日本も大会参加が危ぶまれた程であった。

今大会は別表のようなスタッフ編成となったが、前回のロシア遠征からコーチとして参加している田中修治氏（東海大学監督）と、実業団連盟の玉村健次氏（U－23及びU－19コーチ・湧永製薬）が新たにコーチとして加わった。

松ヘッドコーチのチーム全般管理、松井総合コーチの速攻、玉村コーチの個人技、田村コーチの情報分析と各担当を決めた。また、ドクター・トレーナー陣も、前回も参加し健康管理やメンタルケアで貢献してもらって、6位進出の原動力になってくれた沖本ドクターに、新たに立野トレーナーがコンビを組んでくれ、コンディショニング維持に大きな役割を果たしてくれた。

選手は1998年8月のロシア選考遠征でU－23メンバー12名を選考。前回大会で研修選手として帯同した、所（当時2年）、吉井（当時2年）のその後の活躍例を見て、次回大会の事も考慮しU－19の7名を研修選手的に帯同し、最終エントリーでU－19選手もエントリーした。

ジャパンカップ・ヒロシマ国際・ロシア遠征・98ジャパンカップでの外人との対戦を経験しており、ある程度の国際経験を積んでの参加であったがために、外国チームへの戸惑いとか、気後れは見受けられず、メンタル面での対外人という事には不安はなかったが、ディフェンス面で大型ディフェンダー（190㎝台）の不在を、どのような形にて克服するかが、ドイツ・ハンガリーの合宿での主課題となった。また、オフェンス面はロングヒッター不在をスピードある攻撃でカバーする事を課題として、チーム作りを行った。

交流風景

緒戦のポルトガル戦を落とし引き分けにした事から、前回6位を上回るために、何とか一勝をという選手の気負いが、立ち上がりを固くし、ディフェンスのバランスを欠いて、力で押し込められたり、大事なところで反則をおかすといった状況になり、常に先手を取られてそれを追い上げる展開を余儀なくされ、立ち上がりから自分のペースで戦えたのは、ウクライナ戦のみと言っても良いような状況であった。しかし、従来であると、そこでそのままズルズルと行くケースが多かったが、前回大会から、そのような展開の中で引き分けに持ち込んだような、粘りが出てきた事も認められ今後の明るい材料となっている。

オフェンスも、そこそこの得点力はあるもののロングヒッターが不在でウイングショット的なシュートが決められず、決めれば逆転しマイペースで持ち込めるような時に、決められないといった決定打が不足していた。

1試合の平均得点21・3点、平均失点25・3点という結果になっているが、ユーゴスラビア・トルコ戦の30点台の失点が影響しており、この2試合を除くと、平均得点22・0点、平均失点22・7点となっている。

過去3大会で、ユーゴスラビア・トルコは常にベスト4を確保しているが、日本がベスト4をねらうには、1試合の失点25点までがディフェンスのポイントになっている。

総攻撃回数は368回で1試合平均61・3回となっているが、ミス発生が1試合平均11回でシュート機会は50・3回であって、総攻撃回数から見た得点率は34・8％となっており、ユーゴスラビア・トルコ戦を除くと38・3％であり、少なくとも40％台に乗せる事がオフェンスの課題と言える。

今回の対戦では、上位4チームと言えども、従来のように、まったく歯が立たないというような事はなく、前回に感じた勝ちに行けるという感触を、さらに強く掴んだと言える。今回参加のU－19の選手も含め若手選手の成長が期待できるチーム力が窺えて、次回大会が楽しみである。

今回もドクター、トレーナーの帯同が大きなウエイトを占めたが、スタッフ、プレイヤーは事情が許されるならば、ドクター・トレーナー共にチーム結成から世界学生選手権大会までの期間等、ある程度の固定メンバーであればという希望評が聞かれていた。

審判として、後藤、清水国際審判員が帯同したが、第1回女子世界学生（スロバキア）・第12回（ロシア）・第14回（ハンガリー）・今大会の第15回男子世界学生と4回の審判実績が反映されて、今大会の目玉カードの1つであったユーゴスラビア対ロシア戦の準決勝戦、セミファイナルを担当して、無事大役を果たした。我々はブラバスでの試合のために、この試合のノヴィサト会場での観戦ができずテレビ観戦となったが、あの雰囲気の中で冷静なレフェリングを見せ、試合終了後、宿舎に戻ったユーゴスラビアのジコビッチヘッドコーチ、FISU役員関係や、ウイットネスを務めたグリュンベルガー氏などからグッドレフェリーとの評を聞かされた。

その他気付いた点を記してみると、ハンガリーの前回大会でも観客の応援が多かったが、今回もなぜか日本への応援が多く、グルジュア戦の17対17のイーブン状態で9分強が経過している時は、日本がボールを持つと観客席の全員と

言って良い程に応援をしてくれたり、この試合のみでなく、ユーゴ戦を除いては、レフェリーのおかしな判定にはブーインまでしてくれていた。また、試合後には、日本の各選手へのサイン攻めの光景も見受けられた。

大会参加で常に気になるのが宿舎設備と食事であるが、今回は3ツ星ホテルの「パークホテル」が大会本部と予選リーグA組の選手団宿舎(B組はブラバス)であり、設備面や食事も含めたサービス面で特に大きな不便さは感じられなかった。食事は朝食が、卵(目玉焼き・オムレツ・スクランブルエッグ)・ハム(チーズ付)等の料理からチョイスでき、昼食と夕食はスープ・肉料理・サラダ・デザートであった。各料理、デザートは共に前日にフロアーマネージャーが何が良いかと尋ねてくれるというような気配りがあった。また、ボリュームもソコソコであり、内容や量では特にこれといった物言いはなかったが、肝心の味つけはスープの塩味でも、肉料理の味つけ、デザートの甘味も極端であって、繊細な味つけとは言わないまでも、もう少し何とかという状況であった。しかし、今回の選手達はロシア遠征等で同様の食事を経験しており、マヨネーズや醤油を使って対応していた。

ドクター・トレーナーのケアでゲームやトレーニングでの大きな怪我などもほとんどなく国際研修も含めて無事全日程を終了して1月10日に帰国した。

今大会も、日本協会、特別強化委員会、日本リーグ、強化委員会をはじめ、ボール・サポート用品・その他の物品提供を戴いた企業、役員及び選手の派遣にご協力を戴いた企業、大学監督及び関係者、激励いただいた方々、その他多数の方の暖かいご支援で参加できた事を心からお礼申し上げると共に、ドイツでの強化合宿をオーガナイズしてくれたクノップ氏、ハンガリーの調整合宿や、ユーゴスラビア情報を提供してくれたドクター・ソム氏、マタイデス氏、貴重品とも言えるノンガスの水を大会期間中の分まで、多量に手配していただいた伊藤忠商事(株)ブダペスト事務所田路亮三所長、ノヴィサトでのヨハネ高橋牧師、スペインのマドリッド三越、JALマドリッド支店の方々にも大変お世話になり、誌上をお借り致しお礼を申し上げたい。

日本ーグルジュア　松林選手

第15回男子世界学生選手権大会参加選手団

役職	氏名	所属
チームリーダー	福地賢介	(全日本学連理事長・日本協会強化委員)
ヘッドコーチ	松　喜美夫	(全日本U—23監督・函館大学監督)
総合コーチ	松井幸嗣	(全日本学連理事・日本協会強化委員・ケルン大学)
コーチ	玉村健次	(全日本U—23コーチ・湧永製薬株式会社)
コーチ	田村修治	(全日本U—23コーチ・東海大学監督)
ドクター	沖本信和	(日本協会医科学委員会・濱脇病院)
トレーナー	立野伸一	(日本協会医科学委員会・熊本日赤病院)
レフェリー	後藤　登	(日本協会審判委員会・国際審判員)
レフェリー	清水宣雄	(日本協会審判委員会・国際審判員)
総務兼通訳	岩崎みどり	(株式会社エモックエンタープライズ)

プレイヤー＝19名

	氏名	大学	学年	身長	体重	出身校	利き腕
GK	吉井丈晴	日本大学	4年	182cm	82kg	東京高校	右
GK	谷川一寿	福岡大学	4年	184cm	82kg	久工大付	右
GK	高木　尚	日本体育大学	2年	189cm	80kg	北陸高校	右
CP	所　努	早稲田大学	4年	173cm	64kg	香川高校	右
CP	小藪憲次	中央大学	4年	176cm	70kg	桃山学院	右
CP	武藤崇之	早稲田大学	4年	180cm	82kg	盛岡一高	左
CP	下川真良	大阪体育大学	4年	170cm	65kg	北陽高校	右
CP	小川友康	筑波大学	4年	177cm	65kg	小松工高	左
CP	永島英明	大阪体育大学	4年	188cm	80kg	此花高校	右
CP	瓜生直季	法政大学	4年	189cm	83kg	春日高校	右
CP	古家雅之	筑波大学	3年	184cm	73kg	桃山学院	右
CP	松林克明	日本体育大学	3年	181cm	70kg	桃山学院	右
CP	鶴見　拓	日本大学	3年	175cm	64kg	土浦日大	左
CP	窪小谷貴浩	日本体育大学	2年	197cm	88kg	学法石川	右
CP	小倉　学	日本体育大学	2年	190cm	84kg	霞ケ浦高	右
CP	沢田俊祐	国士館大学	2年	180cm	80kg	明星高校	右
CP	前田誠一	日本体育大学	1年	183cm	74kg	浦和学院	左
CP	豊田賢治	国士館大学	1年	180cm	72kg	浦和学院	左
CP	柳本義文	日本体育大学	1年	170cm	72kg	久工大付	右

雑記

◇ハンガリーからバスでユーゴスラビアに入り国境を越えノヴィサトまでの120kmは山らしい山、木らしい木もなく淡々と雪原が続いていたが、後日、宿舎から5km程の南方向に見える丘陵地帯が、ノヴィサトの所在している北セルビア地区では唯一の丘陵地帯(海抜560m)であると聞かされ、あの雪原も頷けた。

◇バスにての国境越えに1時間程待たされたが、内戦の影響なのか検問に時間がかかった。また、写真撮影などの規制も厳しさが見られたが、出国時のベオグラード空港ではディナールや両替金の持ち出しのチェックが厳しく、アトランダムに何人置きかにチェックしており、日本チームも選手の2名がチェックされそうになった。途中から、地元関係者の計らいで別の入口からノーチェックで入ることができたが、この点でも厳しさが窺えた。

◇帰国時に何かお土産をと思っても特産品らしき物が見つからなかった。南部地区は鉱工業、北部地区は農業が多く、ドナウ川流域の丘陵地帯ではワインが特産と聞かれたが、それ以外では特に聞かれなかった。

◇参加辞退が7ケ国も出た事で大会の運営も大変のようであって、ノヴィサト以外の試合会場へ向かう時は、対戦チーム同士が呉越同舟で1台のバスに同乗して向かうような事もあった。ノヴィサト以外の試合会場の時は、パトカーが先導してくれたが、アイボリーコーストのジュニア大会の時もパトカー先導であったと佐野団長に聞いた話が思い出された。

◇報道として日本リーグ広報部の木内兵太郎氏が同行したが、その

日に撮った写真は翌日すぐＤＰＥに出して、大会インフォメーションに貼付したり、被写体になった人に贈呈したりしていたが、試合後のメンバーの集合写真も撮ってやったりしており、ある意味では親善大使であって、大会では各国から一番注目された人物と言えた。

◇ハンガリー大会の時はバス乗車時にＩＤカードを提示すると無料乗車できたが、今回は宿舎から繁華街で出る時のタクシーは往復とも半額割引であった。因に、初乗り運賃は15ディナール（１７０円内外）であった。

◇各会場（対ユーゴスラビア戦を除く）では本文にも記したが、日本を応援してくる人が大多数で、ツレンニャニンという町での試合の時は、日本贔屓の体育館の管理者が日本ベンチの後でワンプレーごとに大声を出して一喜一憂したりしていたが、会場の声援が励みになったのは言うまでもなかった。

◇12月31日の夜にクリスマスパーティー及びニューイヤーパーティーが開催されたが、大会のクリスマスパーティーのみでなく、ホテルの各ホールでは着飾った外来者が多数参加して、それぞれのパーティーを楽しんでいた。メリークリスマスの声はあったが、ハッピーニューイヤーの声がほとんど聞かれなかったので、この点を尋ねてみたら、ユーゴスラビアではニューイヤーのお祝いは1月7日とか聞かれ31日はクリスマスパーティーが中心と知った。

◇朝食時に出てくるコーヒーは、ミルクコーヒーというかコーヒーミルクであり、町中でそのつもりで、コーヒーを頼んだら、トルココーヒーのようなコーヒーが出てきてビックリした。また、中心地に中華料理店が1軒存在していたので食してみたが、スープを2種類、料理を4種類程頼んだが、スープは具が違うだけで同じ味であり、料理も4種類共に醤油味であった。

（今大会の写真はすべて木内兵太郎氏からの提供です）

第15回 男子世界学生ハンドボール選手権大会結果

期日 1998年12月28日〜1999年1月5日

■12月30日（Zrenjanin・予選リーグ）

日本		ポルトガル
20	8 − 10	20
	12 − 10	

（戦評） 今大会緒戦の日本と28日にユーゴスラビアと開幕戦を行っているポルトガルでは、やや日本に固さが見られ立ち上がりに不安を持たれたが、開始早々にDavidのサイドシュートで先制された。しかし、その直後に所の7mからの得点で落ち着き、古家（筑波大）、鶴見（日本大）と得点した。その後日本は7mやシュートミスが多く、10分経過時点で、3対2のロースコアで推移した。その後、24分にポルトガルのエースJoaoに決められてから、3連続失点し前半を2点差で折り返した。

後半は、瓜生（法政大）、永島（大体大）、松林（日体大）、古家等のディフェンス陣の頑張りと、ＧＫ谷川の堅守で15分間で3失点に抑えている間に、所、古家、鶴見、松林などが得点し、25分経過時点で20対16とした。しかしここで急にディフェンス陣の乱れが生じた事や、ポルトガルのプレスディフェンスにボールを支配できずに、26、27、28、29分とJoao、Ricarodoに連続得点されて、引き分けに持ち込まれてしまった。残り1分で鶴見がシュートモーションを起こしたのにもかかわらずパッシブプレイの判定で無得点になった不可解な判定も後味が悪かった。

［得点］
日本：所＝4・松林＝1・小薮＝1・小倉（日体大）＝2・小川（筑波大）＝2・永島＝1・古家＝5・鶴見＝4
ポルトガル：Ricarodo＝4・Tiag＝5・Joao＝6・その他

■12月31日（Novi Sad・予選リーグ）

日本		トルコ
22	7 − 16	31
	15 − 15	

（戦評） ゲームはCengizのロングシュートで先制したトルコが、動きの悪い日本の攻守のミスをついて、4連続得点し、10分までに日本の攻撃を1点に抑え優位に立ち、前半を終わって16対7と大差をつけられた。

後半に入り、日本は下川（大体

大）の速攻、サイドシュート、小薮（中央大）のカットインなどでイーブンに渡り合うが、要所要所で放つTamer、Omer、Cengizのロングを止められずに、小倉（日体大）、小川（筑波大）、小薮のシュートで追いかけるが、結局、前半の失点が大きく大差で敗れた。

【得点】
日本：所＝2・松林＝2・小薮＝4・小倉＝4・下川＝3・小川＝1・永島＝2・古家＝3・鶴見＝1
トルコ：Tamer＝6・Serdar＝4・Mesut＝3・Cengiz＝9・Ahmet＝3・その他

閉会式

■1月2日（Nova Sad・予選リーグ）

日本
18
9 9
| |
14 16
30
ユーゴスラビア

（戦評）優勝候補と目される地元の応援一色のユーゴスラビアとの一戦は、動きが固い上に、ディフェンス中心の布陣（エースKrivo-kapicは欠場）の守りを崩せず、12分経過時点で古家のミドル、下川のサイドシュートの2点に抑えられ、Nikolicのポストシュートなどで得点を許し、16対9で前半で勝負がついてしまった。

後半は、ユーゴスラビアも若手に切り替えての対戦となった。所のステップ、小倉のロング、古家のカットインなどで20分過ぎには8点差まで詰め寄るものの、ラスト5分で4失点し、トルコ戦に続き30失点となって大敗した。

【得点】
日本：所＝4・松林＝1・小倉＝3・下川＝2・小川＝2・永島＝1・古家＝5
ユーゴ：Msksic＝6・Nikolic＝5・Eklemoic＝5・Petric＝4・Kokir＝3・その他

■1月3日（Zrenjanin・予選リーグ）

日本
17
10 7
| |
5 12
17
グルジュア

（戦評）開始1分10秒にグルジュアのAndriashviliのロングが決まり先行されたが、すぐに、小川のミドルで追いつき、その後は所の7mなどもあって互角に推移した。14分過ぎから攻撃のリズムが悪くなると共にディフェンスのバランスが崩れ、7分間無得点の間に一挙に5連続失点となり前半は7対12と5点差で終了。

後半に入り、立ち上がりからGK高木の再三にわたるファインセーブでピンチを凌ぐ間に、オフェンスもディフェンスもリズムを取り戻し、小倉のロング、下川の速攻、古家のカットイン等で追い上げ、その間ディフェンスもよく守り、GK高木のファインセーブの

第15回男子世界学生選手権大会全成績及び練習試合結果

予選リーグ
A組＝ユーゴスラビア・トルコ・日本・グルジュア・ポルトガル
B組＝ハンガリー・ロシア・ブラジル・ウクライナ・ナイジェリア

12月28日（予選リーグ）
A組
ユーゴスラビア 35―19 ポルトガル

12月29日（予選リーグ）
A組
トルコ 27―26 グルジュア

12月30日（予選リーグ）
A組
日本 20―20 ポルトガル
ユーゴスラビア 35―15 グルジュア

12月31日（予選リーグ）
A組
トルコ 31―22 日本
グルジュア 19―14 ポルトガル

1月2日（予選リーグ）
A組
ユーゴスラビア 30―18 日本
トルコ 27―22 ポルトガル

1月3日（予選リーグ）
A組
日本 17―17 グルジュア
ユーゴスラビア 27―22 トルコ

予選リーグ順位
A組
1位＝ユーゴスラビア 4勝0分0敗
2位＝トルコ 3勝0分1敗
3位＝グルジュア 1勝1分2敗
4位＝日本 0勝2分3敗
5位＝ポルトガル 0勝1分4敗
B組
1位＝ハンガリー 3勝0分0敗
2位＝ロシア 2勝0分1敗
3位＝ブラジル 1勝0分2敗
4位＝ウクライナ 0勝0分3敗
棄権＝ナイジェリア

1月4日（順位決定予備戦及び準決勝）
A組4位―B組3位
ブラジル 27―23 日本
A組3位―B組4位
グルジュア 26―25 ウクライナ
※準決勝戦
B組1位―A組2位
ハンガリー 35―27 トルコ
A組1位―B組2位
ユーゴスラビア 30―28 ロシア

1月5日（順位決定戦）
フレンドリーマッチ
シンテロン 29―28 ポルトガル
7位～8位決定戦
日本 28―27 ウクライナ
5位～6位決定戦
ブラジル 27―23 グルジュア
3位～4位決定戦
ロシア 25―23 トルコ
決勝戦
ユーゴスラビア 34―25 ハンガリー

順位
優勝＝ユーゴスラビア
2位＝ハンガリー
3位＝ロシア
4位＝トルコ
5位＝ブラジル
6位＝グルジュア
7位＝日本
8位＝ウクライナ
9位＝ポルトガル

練習試合
ドイツ
12月14日（月）
全日本学生選抜 28―25 Schutterwald
12月15日（火）
全日本学生選抜 24―26 TSG Munster
12月16日（水）
全日本学生選抜 25―21 TV Frankischi Crumbach
12月17日（木）
全日本学生選抜 30―24 SG Bruchkbel
ハンガリー
12月20日（日）
全日本学生選抜 33―25 ハンガリージュニア選抜
12月22日（火）
全日本学生選抜 24―33 ハンガリー学生選抜
12月26日（土）
全日本学生選抜 28―22 Tokol

連続で失点を5点に抑え、さらに残り12分間を無得点に抑え、21分には永島の速攻で同点に追いついた。その後の残り9分間は、所、瓜生の退場などがありピンチの連続であった。場内を沸きに沸かせた高木の好守を背景に、何度となくグルジュアのゴールをねらうが得点に至らず、結局引き分けに終わった。この結果、日本は5～8位決定予備戦に回る事になった。

[得点]
日本：所=3・松林=1・小倉=2・下川=2・小川=2・永島=2・瓜生=1・古家=4・鶴見=1
グルジュア：Andriashvili=4・Daturashvili=4・Turuis=3・その他

■1月4日（BACKA・順位決定予備戦）

日本	前半	後半	ブラジル
23	11－16	12－11	27

（戦評）開始1分、ブラジルLimaのサイドシュートで先行され、その後もコンスタントにポスト（Pelissari）シュート、サイドシュートで得点するブラジルを古家、小川などのシュートで追い上げるが、結局、前半は5点差で終了。

このゲームも追う展開となった。

後半に入り小倉のロング、下川の速攻、小薮のカットイン、松林のポストと追い上げ、10分には2点差まで詰め寄るが、そこから5分間、無得点に抑えられている間にLimaのサイドシュート、SouzやReisのロングで3連続得点されて突き放される。その後、下川、永島、古家のシュートで追いすがるが、20分過ぎに退場者が出て、さらに松林、古家に納得のいかないレッドカードの出る判定もあり、残り2分間で小薮、小倉の得点も結びつかず7～8位決定戦回りとなった。

日本ーグルジュア　下川選手

[得点]
日本：所=3・松林=1・小薮=2・小倉=4・下川=4・小川=4・永島=1・古家=3・鶴見=1
ブラジル：Souza=7・Lima=5・Pelissari=4・Silva=3・Reis=3・その他

■1月5日（Zrenjanin・7～8位決定戦）

日本	前半	後半	延長前半	延長後半	ウクライナ
28	11－13	13－11	2－2	2－1	27

（戦評）会場のZrenjaninでは、このゲームも含め3ゲーム目の日本は、ホームの試合のような気がする雰囲気の中で大会最後のゲームを戦った。何とか一勝をとスタッフ・プレイヤー一丸となってウクライナ戦に挑んだ。前半6分までは小薮・小川・下川の得点で3対3のイーブンで進んだが、ここから気負いがリズムを崩し、ウクライナにつけこまれ5連続失点となった。21分過ぎから所・下川・鶴見・所・小川と連続得点で前半は2点差に追い上げた。

後半開始6分間、ウクライナの攻撃を無得点に抑えている間に、下川の速攻、古家のミドルで同点、さらに6分に小川で14対13とリードしたが、14分40秒にRomanのロング2発で再度逆転される。Konstanynのポストシュートなどで得点され22分には2点差とされピンチになったが、その後8分間をディフェンスのふんばりと、何かが乗り移ったと思われるようなGK高木の気迫溢れる再三の好セーブで1点に抑え、小薮、下川で1点差、28分に小倉のシュートで延長へ。

延長戦では、何とか勝利をという日本の気迫が上回った事と、圧倒的な会場の応援の後押しを弾みにして、小薮、松林で延長戦前半を2対2で終了。延長後半開始35秒、鶴見のサイドシュートで先行、さらに3分、鶴見の劇的なスカイプレーが出た。ウクライナの反撃を残り30秒の1点に抑えて7位を確保した。

[得点]
日本：所=4・松林=1・小薮=4・小倉=2・下川=6・小川=4・古家=4・鶴見=3
ウクライナ：Roman=12・Konstanyn=6・Dmytro=4・その他

平成11年度審判部合同委員会議事録

日　時：平成11年1月23日（土）～24日（日）

場　所：国立オリンピック記念青少年センター

出席者：

専　務　理　事・市原

審　判　部　長・斎藤

競技運営部長・江成

審査指導委員・加藤、矢澤、川島、藤本、福田

アドバイザー・狩野

連　盟　審　判　長・喜井、島田（代理）、市瀬、岡本（代理）

ブロック審判長・倉本、小友、上久保、中山、板倉、北山、古冨、松原、森山

競技規則委員長・後藤

日本リーグ委員・羽田

総　務　委　員・花野、井田、兼田、北村

【開催挨拶】

1　日本協会：市原専務理事

2　斎藤審判部長より新任挨拶

【報告事項】

1　審判委員会活動報告

（1）平成10年度審判委員会事業報告

①審判員規定の改定について

・（財）日本ハンドボール協会公認審判員規定、第16条について改正の提案がなされ、了承された。

②事業計画に対する経過報告

・平成10年度事業中間報告について報告がなされた。

③日韓レフェリー交流について

・平成10年5月全日本実業団に韓国ペアを招聘した。

④ジャパンカップについて

・平成10年11月ジャパンカップについて報告がなされた。

⑤ザムスト・コーチ・レフェリーシンポジウムについて

・平成10年7月ザムスト・コーチ・レフェリーシンポジウムについて報告がなされた。

⑥海外派遣審判員について

・平成10年度、国際・大陸審判員の活動について報告がなされた。

⑦テクニカルデレゲートについて

・テクニカルデレゲートの任務の指針について説明が江成競技運営部長よりなされた。今回提出されたものは資料であり、後日、公式文書を提出する。

（2）審判指導委員会報告

平成10年度A・B級審査結果について報告がなされた。

・平成10年度JHAレフェリーコース、実業団レフェリーコースについて報告がなされた。

・平成10年度日本リーグ審判講習会について報告がなされた。

・平成10年度全日本大会評価について報告がなされた。

・平成11年度A・B級書類審査結果について報告がなされた。

（3）各ブロック活動報告

・各ブロック審判長より報告がなされた。

<回答事項>

・日本リーグ審判講習会の講師派遣費はリーグで持つが、会場費はブロック講習会と平行して行うなどでまかなって欲しい。

・全国大会の審判員の辞退は以下の手順で行う。

本人→都道府県審判長→ブロック審判長→日本協会審判部長→会場都道府県協会

・スローオフ時のレフェリーのポジションは全体がよく見えるところであればよい。

（4）各連盟活動報告

・各連盟審判長より報告がなされた。

（5）日本リーグ審判委員会活動報告

・平成10年度プレーオフは3月20日、21日駒沢体育館で行う。レフェリーは韓国ペアを招聘する。

男子2部は東西で順位決定戦を行う。

男子1部の来年度不参加があるため入替戦は行わない。

来年度女子は1部12チームで行うため、入替戦は行わない。

・平成11年度リーグ日程は現在調整中。

・3月末までに、1、2部の審判団の推薦を行って欲しい。

・平成10年度ブロック講習会の日程が決まり次第リーグ事務局に知らせて欲しい。

（6）競技規則研究委員会活動報告

・必携は3月中に校正を行い、4月初めには発行する。

（7）総務委員会活動報告

・総務委員長より報告がなされた。

（8）新会員登録制度について

・村松総務担当常務理事より新会員登録制度の審判登録について説明がされた。

2　その他

・平成10年度日本協会表彰者に、前々日本協会審判長岡前義春氏を推薦する。

【審議事項】

1　平成10年度残事業について（レフェリー・シンポジウム、トップレフェリー研修会）

・レフェリー・シンポジウム
2月27日、28日に東京で行う。

・トップレフェリー研修会
3月26日～28日、愛知県で行う。

2　平成11年度審判委員会事業計画と予算について

・現在までの、10年度予算執行状況について説明がなされた。

・審判部の基本方針と共に、11年度予算について説明がなされた。

3　平成11年度全日本大会審判割り当てについて

・別紙の通り、ブロックへ割振りを行う。

・全日本総合の審判員は11年度の大会を見ながら決定する。

・ブロック長は3月20日までに名簿を審判部長に提出する。

・指名制度については審判部長、審査指導委員会で検討を行う。

4　平成11年度A・B級審判員審査会について

・A級の合格発表は4月にテストを行い合格予定者を決める。合格予定者には研修ノートを持たせ、10試合を吹笛し、県、ブロック審判長にコメントをもらい9月15日までに提出する。その後、審査指導委員会で検討し10月1日付で認定する。

・B級の合格発表は、8月末日、一斉に行う。

5　平成11年度全日本大会審判員評価について

・審査員は最初の審判会議から参加し、毎日の反省にも参加し、審判長をサポートし、審判員を指導する。大会では、全審判員を観察する。

・平成10年度の優秀レフェリーは以下の3ペアとする。

仲里　貢、中地健三（沖縄）
浅野幹也、神谷真次（愛知）
大沢由和、佐藤睦朗（岩手）

6　JHAレフェリーコースの運営について
・平成11年度も行う方向で検討するが、場所については未定である。

7　新会員登録制度に対する審判部の登録について
・審判部として協会の10万人登録の方針に賛成。
・審判登録金は個人より自動引き落とし、県協会は名簿のみを提出する。
・県協会へは、登録人数毎に審判事務運営資金を還元する。
・終身審判員で立会人等を行う者に対しては登録を義務付ける。
・新人発掘のため、D級に関して登録義務づけを見送るよう理事会に提案する。

8　全国大会審判員の制服について
・冬用上着は紺、ダブルのブレザーとする。
・スラックスはグレーを基調とし、各自で用意する。但し、斡旋も検討する。
・エンブレムは現在役員が使用しているもののバックをエンジにする。
・夏服は水色のカッターシャツに協会シンボルマークを入れる。
・ネクタイは協会シンボルマーク決定後に検討する。
・事務取扱は総務委員会で行う。

9　ビーチハンドボールについて
・ビーチハンドボールの競技規則が提示された。用語等の詰めが充分でないため、今回のものは暫定的なものである。

10　その他
（1）IHFレフェリーコースの開催見通しについて
・国際と大陸の両方のコースを同時に行う方向で考えていく。
（2）ジャパンカップ、日本リーグプレイオフ招聘、全日本実業団選手権レフェリーについて
・日韓交流はジャパンカップで行う方向で検討する。
（3）各地域での審判員講習会開催について
・各地域で講習会を行い、講師を必要とする場合には審査指導委員会を通し、派遣を依頼してほしい。県、ブロック長が行う場合には従来通り。
（4）日本リーグ会場審判長の意識統一化について
・日本リーグ会場審判長の意識統一を図るため、東西2ケ所で講習会を実施する。
・日本リーグ評価表は審査指導委員長に送付する。
（5）国際・大陸・若手審判員の育成について
・国際、大陸、若手レフェリーの推薦をお願いしたい。
・国際、大陸に関しては県を越えてのペアを作ることも考慮中である。
（6）審判部活性化のための提言
・大会派遣審判員全員に、決勝を吹くチャンスを与えたい。このため、宿泊に関しては流動的に対応する。
・優秀レフェリーには年度の入ったワッペンを支給し、1年間はそれを付けることを認める。
・優秀レフェリーには、全日本総合に出られる道を作る。
（7）その他
・平成11年度の審判員の目標が提示された。（下記参照）
・平成10年度に出された質問に対する回答が示された。
・終身審判員の確認がなされた。
・男子ナショナルチームヨーロッパ遠征帯同の報告がなされた。
・第6回アジア男子ジュニア選手権審判帯同の報告がなされた。
・審判部名簿の訂正、確認を行った。
・チーム責任者マークについて検討を行う。
・審判員は審判会議から出席するように徹底する事の確認。
※平成10年度に亡くなられた審判員に対して黙祷を行った。

平成11年度　審判員の目標

（財）日本ハンドボール協会審判部会

◎審判員の課題

1　相手に対する動作で、ディフェンスの正しい防御動作を正当に評価する。
①ハンドボール競技は、身体接触の許されているスポーツであるので、正当な防御活動を保障する。しかし、攻撃側を側面から、または後方からの防御活動は、罰則を厳しく適用する。
②重大なファールは失格である。（著しくスポーツマンシップに反する行為にも適用する。）
☆ラフプレーはハンドボールの技術向上を阻害する。
☆ゲームの最初でレフェリーは判定の基準を示し、その後その基準を崩さない。

2　コートレフェリーとゴールレフェリーのコンビの再確認と、さらに記録席との連携を密接にしなければならない。
①レフェリーはルールに精通すると共に、2人のレフェリーのコンビが第一である。
②スムースなゲームの運営はレフェリーの責務である。

3　レフェリーは自信を持ってゲームの管理にあたり、プレーヤーや観衆を納得させる笛を吹かなければならない。
①レフェリーはプレーヤーや観衆を納得させる、正しいジェスチャーを用いる。
②レフェリーはイエローカードを適切に使い、スムースなゲームの管理・運営にあたる。
③プレーヤーの技術を発揮させ、クリーンなゲームの進行の責任はレフェリーにある。

4　レフェリーは常に、トレーニングにより体調を整えておかなければならない。

5　レフェリングは技術のみではない。日頃から人間性を磨け。
①コート上の姿には、常にそのレフェリーの人間性が現れる。

◎研究課題

1　レフェリーの位置取りについて

2　アドバンテージの適用について

平成10年度A・B級審査会及び全国大会評価より

審判審査指導委員長
加藤　雅之

判定基準について

年間を通じ、国内の全体会においてレフェリーの基準が全て統一されていることを審判部の最大の念願としている。この目的のために、あらゆる機会を通じて話し合い、講習会、研修会を持っている。審判合同委員会においても、全ブロック審判長、各連盟審判部長とが会議を持ち、さらに県審判長会議で解釈の統一を図っている。最近では、地域によって判定基準が異なることは少なくなってきてはいるが、この様な声が完全に消えたわけではなく、あらゆる機会を持って解消していかなければならない。

審査会や大会審判評価で感じるのは、地域と言うよりはペア間での判定基準がバラバラのケースが多く見られ、プレイヤー、ベンチからのブーイングの対象となっているケースがよく見られる。最も多く見られるのはフェイントステップの場面で、Aレフェリーはオーバーステップとして吹くが、Bレフェリーは同じステップであっても笛を吹かないのである。パッシブプレーの予告判断を下すタイミングがペア間で異なったり、その他の判定でもペア間の基準がまちまちであってはならない。事前に話し合いをしっかり持ち、ゲーム開始から相手の笛にも気を配り、独りよがりの笛をなくしてほしい。ゲームはじめに示した基準を崩さないことがレフェリーの責務であるし、このための努力を惜しんではならない。

レフェリーは一冊のノートを

審査会やレフェリーコースのおりに、ゲームが終わったら良かった点や悪かった点をメモしておき、次のゲームの前に確認してから臨むように指導しているが、残念なことに専用のノートを携帯しているレフェリーは非常に少ない。審判会議や反省会に筆記用具すら持たないで参加するレフェリーもいるが、聞き放しでは忘れることも多く、同じ失敗を繰り返してしまうものである。ペアでの話し合い、審判長、立会人、同僚等からのアドバイスや指摘を残すメモを一冊是非持っていてほしい。

何よりも経験が上達の早道ではあるが、反省を生かさなければ、その上達はさらに遠回りとなる。

競技時間の遅延を防ぐ

チームタイムアウトの採用や、来年度から種別によっては競技時間が延長され、1ゲーム当たりの所要時間が長くなり、大会運営に大きな影響が生じ始めている。我々レフェリーサイドでも、競技時間の無駄をできる限り削減する努力をしなければならない。

競技規則の解釈1（54ページ）にタイムアウトの事例が述べられている。チームタイムアウトに関してレフェリーはタッチすることはできないが、解釈1の事項に関しては状況判断を的確にしたり、速やかなるゲーム再開によりロスタイムの削減が可能になる。競技場事前点検のまずさからのネット修理、必要以上の背番号確認、負傷者が発生したときのベンチとの連絡の悪さからのロス、オフィシャルとコンタクトの悪さからのロスなどレフェリーの姿勢と判断で競技時間を短縮できるだろう。ゲーム開始から終了の挨拶まで、1ゲームをスムースに管理、運営して欲しい。

女性レフェリーの発掘登用を

ここ数年来、全国大会、日本リーグレフェリー名簿に女性の名前が見られるようになった。今年は全日本総合選手権大会50回にして初めての女性レフェリーペアが登場した。

IHFでも国際女性レフェリーだけの講習会が開催された。現在審判部に登録されている女性レフェリーは、A級6名、B級6名、C級27名である。このうちから、11年度にはA級と、B級の受験希望者が出ている。しかしながら登録レフェリー全体から見ればまだまだ少ない。

さらなる女性のレフェリー発掘はもとより、上級レフェリーへ積極的に参加できるよう、各ブロック協会、県協会のご指導と、ご協力をお願いいたします。

第13回アジア競技大会個人成績

男　子

	氏名	所属先	予選ラウンド 対タイ	対クウェート	対UAE	準決勝 対韓国	3位決定戦 対イラン	計
1	橋本行弘	本田技研		0	0	0	0	0
16	坪根敏宏	湧永製薬	0				0	0
12	日原一幸	大同特殊鋼	0	0	0	0		0
3	角谷裕司	日新製鋼		0	4	3	2	9
4	佐々木教裕	本田技研	9	0	1	5	2	17
5	冨本栄次	大同特殊鋼	7	2	1	7	6	23
6	森山透	湧永製薬	4	0		0		4
7	中山剛	湧永製薬	3	4	4	3	2	16
8	岩本真典	三陽商会	4		2	1		7
10	末岡政弘	大同特殊鋼	2	5	6	4	8	25
13	藤井孝志	大同特殊鋼	1	2	2	2	2	9
14	杉山裕一	湧永製薬	5	1	3	0	1	10
17	茅場清	本田技研	10	4	6	2	5	27
18	山口修	湧永製薬					0	0
19	広政宜孝	本田技研	9	2	0		0	11
20	辻昇一	大崎電気						0

女　子

	氏名	所属先	対北朝鮮	対中国	対タイ	対韓国	対カザフスタン	計
12	山口文子	オムロン	0	0		0	0	0
16	山下美智子	大和銀行	0	0	0	0	0	0
2	沖土居真子	日立栃木	5	4	6	4	4	23
3	宮本奈芳美	オムロン	0		10	0		10
4	松本恵美	日立栃木	0	1	1	1	0	3
5	小林直美	香川銀行			7			7
6	青戸あかね	イズミ	0	0	2	0	0	2
7	小松真理子	北国銀行	0	1		4	5	10
8	田中美音子	大和銀行	6	11	3	6	7	33
9	田中美代子	北国銀行	4	1	1	5	6	17
10	田中由美子	北国銀行	3	2		0	3	8
11	中村友美	北国銀行	1	2		1	1	5
13	池田奈美子	ジャスコ			3			3
14	倉知光子	大和銀行			4			4
15	藤浦美絵	大和銀行	1	0	6	2	0	9
17	熊谷祐子	シャトレーゼ		0	3		0	3

平成10年度（第22回）全国高等学校ハンドボール選抜大会要項

1．主催　（財）日本ハンドボール協会

2．共催　全国高等学校体育連盟

3．後援　文部省　大阪府　大阪市　大阪府教育委員会　大阪市教育委員会（財）大阪体育協会（財）大阪市体育協会　近畿ハンドボール協会　毎日新聞社

4．主管　大阪ハンドボール協会　大阪市ハンドボール連盟　全国高等学校体育連盟ハンドボール部　近畿高等学校体育連盟ハンドボール部　大阪高等学校体育連盟ハンドボール部

5．協賛　㈱アシックス　明星ゴム工業㈱

6．協力　㈱大和銀行　㈱タナベスポーツ　八光自動車工業㈱　湧永製薬㈱

7．期日　平成11年3月24日（水）～28日（日）　（5日間）

8．会場　大阪市中央体育館、舞洲アリーナ

9．競技規則

平成10年度日本ハンドボール協会競技規則による。

10．競技方法　トーナメント方式とし3位決定戦は行わない。

11．参加校

全国9ブロック等より下記の選抜男、女各36チームとする。

◆北北海道（1）/（男）釧路江南（女）釧路西

◆南北海道（1）/（男）函館工業（女）札幌月寒

◆東北（4）/（男）不来方・岩手、学校法人石川・福島、羽後・秋田、青森・青森、（女）盛岡第二・岩手、大曲農業・秋田、聖和・宮城、郡山東・福島

◆関東（5）/（男）伊奈・埼玉、駿台甲府・山梨、二松学舎大学附属沼南・千葉、富岡・群馬、浦和学院・埼玉、（女）昭和学院・千葉、浦和実業・埼玉、水海道第二・茨城、富岡・群馬、栃木商業・栃木

◆東京（1）/（男）町田工業（女）文化女子大学附属杉並

◆神奈川（1）/（男）横浜商工（女）川崎北

◆北信越（3）/（男）高岡向陵・富山、北陸・福井、金沢市立工業・石川、（女）福井商業・福井、小松・石川、氷見・富山

◆東海（2）/（男）四日市工業・三重、岐阜商業・岐阜、（女）暁・三重、益下・岐阜

◆愛知（1）/（男）岡崎城西（女）名古屋短大附属

◆近畿（4）/（男）育英・兵庫、洛北・京都、北大和・奈良、紀北農芸・和歌山、（女）添上・奈良、夙川学院・兵庫、洛北・京都、初芝橋本・和歌山

◆大阪（1）/（男）此花学院（女）四天王寺

◆中国（3）/下松工業・山口、広・広島、東岡山・岡山、（女）岩国商業・山口、山陽女子・広島、倉敷中央・岡山

◆四国（2）/（男）高松工芸・香川、新居浜工業・愛媛、（女）高松商業・香川、松山北・愛媛

◆九州（6）/（男）興南・沖縄、熊本市立商業・熊本、久留米工業大学付属・福岡、瓊浦・長崎、大分国際情報・大分、神埼清明・佐賀、（女）松橋・熊本、大分鶴崎・大分、筑紫女学園・福岡、純心女子・長崎、浦添・沖縄、神埼清明・佐賀

◆開催地（1）/（男）桃山学院・大阪、（女）大谷・大阪

12．チーム

1チームの人員は、責任者1名、監督1名、主務1名、選手14名（14名出場可）とする。

13．組み合わせ

（財）日本ハンドボール協会と全国高等学校体育連盟ハンドボール部にて行う。

14．使用球

（財）日本ハンドボール協会公認球（ミカサ手縫いボール）

15．監督主将会議

平成11年3月24日（水）午前9時30分　大阪市中央体育館大会議室

16．開、閉会式

開会式は、3月24日（水）午前11時30分より大阪市中央体育館にて行う。各チームは全員競技服装で参加する。閉会式は、競技終了後直ちに大阪市中央体育館にて行う。

17．競技日程

日程	内容	会場
3月24日	開会式 男女1回戦	大阪市中央体育館
3月25日	男女2回戦	大阪市中央体育館 舞洲アリーナ
3月26日	男女3回戦	大阪市中央体育館 舞洲アリーナ
3月27日	男女4回戦・準決勝	大阪市中央体育館
3月28日	男女決勝戦・閉会式	大阪市中央体育館

ANA CUP
第23回日本ハンドボールリーグプレーオフのご案内

日本一を目指し、国際的なハイレベルで争われる、第23回日本ハンドボールリーグプレーオフ大会は、いよいよ下記により開催されます。昨年の男子決勝で展開された湧永製薬・本田技研の死闘はご記憶に新しいところですが、スケジュール後期に入った日本リーグの状況から見て、今年も駒沢体育館を興奮の渦に巻き込む熱戦が必至となって参りました。常に新しい話題を提供し続けるプレーオフは、今回も多くの皆様のご観戦をお待ち申し上げております。

大　会　名　ANA CUP
　　　　　　第23回日本ハンドボールリーグプレーオフ
主　　　催　（財）日本ハンドボール協会
　　　　　　日本ハンドボールリーグ機構
主　　　管　日本ハンドボールリーグ運営委員会
　　　　　　第23回日本リーグプレーオフ実行委員会
特別協賛　ANA（全日空）
期　　　間　平成11年３月20日(土)～21日(日)・２日間
日　　　程

第１日　３月20日（土）

15:00 プレーオフ・女子準決勝(2位×3位) 17:00 プレーオフ・男子準決勝(2位×3位)	〔TVK放映〕 18:30～21:45

第２日　３月21日（日）

13:00 プレーオフ・女子決勝(1位×準決勝勝者) 15:30 プレーオフ・男子決勝(1位×準決勝勝者)	〔TVK放映〕 18:30～21:45

開催場所　駒沢体育館・東京（タラフレックス使用）
出場チーム　公式リーグ戦・男女上位各３チーム
ＴＶ中継　男女：準決勝、決勝、計４試合
　（ＴＶＫ－テレビ神奈川－によるゴールデンタイム録画放送）
入　場　料

【前売券】	全席自由席	一般・大学生	1,700円
		中高生	800円
		一般ペア	3,000円
		中高生(５名)	3,000円
【当日券】	全席自由席	一般・大学生	2,000円
		中　高　生	1,000円

＊小学生以下無料
＊前売入場券は「チケットぴあ」　☎03-5237-9999

問合せ先　日本ハンドボールリーグ運営委員会
☎03-3481-2361

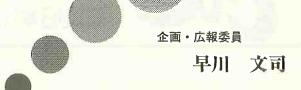
シドニー五輪出場へ一直線だ

企画・広報委員
早川　文司

昨冬、タイ・バンコクで行われたアジア大会で日本は男女とも銅メダルを獲得した。この成績をどのように評価するかはさておき、女子は今冬の世界選手権（ノルウェー）の出場権を獲得した。ここで5位以内に入ればシドニー・オリンピックへの切符がすぐ手に入ることになる。状況は大変厳しいと言わざるを得ないが、ともかく“第一関門”を突破したことだけは間違いない。

ところで、一方の男子はどうか。蒲生新体制がスタートし、まずアジア大会で世界選手権出場権獲得を目指したが、急遽中国での予選開催となり、韓国、中国に敗れ目標の達成はならなかった。そしてアジア大会では3位。再出発にも失敗した蒲生体制は残念ながら“崩壊”し、新しい指揮官でシドニー・オリンピック出場を目指すことになった。

私はこれまでも何度となくオリンピック出場の重要性をこの欄で触れてきた。わが国では（国民性かもしれないが…）とにかくオリンピック至上主義である。極論すれば、そこに出場しない競技は、スポーツではないとまでとらえられることさえある。そのためにも何としても2000年のシドニーには、出場しなくてはハンドボールの地位は下がってくるのは必至だろう。

というのも、ハンドボールは、男子がバルセロナ、アトランタ大会に連続して出場を逃しており、女子にいたってはアベック出場した76年のモントリオール以来途絶えているからだ。幸い昨年12月のアジア連盟定時定例総会（タイ・バンコク）で男女のアジア予選を日本で開催することが決まった。これほどの強い援軍はないといえるだろう。

日本開催は先にも触れたように、男女ともこれほど有利なことはない。ましてやアラブ諸国での開催となれば、その時点でまたも悲願達成は先送りになったといってもいいくらいの“絶対条件”だったからだ。

不況下で経済的には非常に厳しいものがあろうが、ここははっきりと照準を定めて、とにもかくにも「シドニー」への扉を開くことしかない。ハンドボールの地位向上のためにも、それを将来につなぐためにも、“戦う軍団”の意地を見せなくてはなるまい。シドニー・オリンピック出場の結果は、今後のハンドボール界を大きく左右するといっても過言ではあるまい。悲願成就へ一直線に突き進もうではないか。

ANA CARD

ショッピングでマイルを貯めるならやっぱりANAカード!

お買物やお食事でもカードでしっかり貯めやすい

クレジット会社のポイントを100円=1マイルで貯められます。

一度で2倍貯まる「ショッピングアルファ」も充実

下記のお支払い内容なら、100円=1マイルを自動的に加算。クレジット会社のポイントによるマイルと合わせて、100円=2マイルになるうれしいサービスです。

■対象商品・店舗

●国内全日空各支店、空港カウンターでの航空券のお求め、および機内販売 ●高島屋 ●日本石油SS ●出光SS

ANA ANK エアーニッポン

さらにボーナスマイルで貯めやすさがアップ!

飛ぶたびに基本マイレージの15%(ワイドカードの場合。一般カードは5%)のボーナスマイル。また、毎年初めてのご搭乗時に3,000マイル(ワイドカードの場合。一般カードは1,000マイル)のボーナスマイルでおトクに貯まります。

今なら、一般カード初年度年会費無料サービス中です

今日からマイルが貯められるインスタントカード付き

お問い合わせ、入会申込書のご請求は、フリーダイヤル 0120-029-707まで
[受付時間] 9:30~17:00(土・日・祝・年末年始を除く)
全日空各支店、空港カウンターにもございます。

第9回 全京都車いすハンドボール大会

京都ハンドボール協会　**藤本　昇**

平成10年度第9回全京都車いすハンドボール大会が11月29日京都市障害者スポーツセンターで開催されました。

今年は昨年以上にお手伝いにあたる役員、レフェリーの方々が多く見られた。また初参加の高校生チームや、健常者の手を抜かないパワーあふれるシュートや保護者の声援も大きく盛り上がっていた。

試合は、参加チーム一般の部8チーム、ジュニアの部4チームで実施された。中でも今回は府立西宇治高校福祉科コースの生徒男女がABチームに分かれて参加したのが目を引いた。

一般の部ではスーパースターズ（宮津市）が圧倒的な強さで長岡W・H・Cを破り優勝した。車いす操作テクニック、スピードある走力、GKを含めたディフェンス力、攻めては速攻での強力なシュート、両サイドでゆさぶりをかけて相手ディフェンダーの守備を崩してからのコンビネーションからのシュート等、車いすハンドボールの研究技術を身につけていた。

準優勝の長岡W・H・Cは、力及ばなかったものの、相手ディフェンスにサイドブロックをかけてのフォーメーションプレーで対抗したが、シュート力に差があらわれた。しかし、老練の監督さんによる指示、作戦タイム等、感心させられた。

初参加の西宇治高校。A・Bチームとも力及ばず初戦敗退したが、何かと勉強になったことでしょう。（引率教論はかって東宇治高校をインターハイ、選抜大会等に京都府代表として出場させていた名将西沢金作先生であり、自らも車いすに乗って監督兼任で参加しポイントをあげていた）

ジュニアの部は関係先生、保護者の声援のもと、くれたけ対笑福亭一門の間で争われたが、くれたけが1点差で逃げきり昨年の雪辱を果たし優勝した。

今、全国的には障害を持つ人々がすすんで社会参加されるのが望まれていますが、車いすハンドボールでの府県対抗ができればと祈っています。

成　績

●一般の部

優　勝

- ① スーパースターズ 28 － 4 西宇治高A
- ② ハンドインハンド 14 － 7 日吉丘LC・B
- ③ ナガオカWHC 22 － 9 日吉丘LC・A
- ④ KSAC 19 － 9 西宇治高B
- ⑤ 32 － 8
- ⑥ 13 － 9
- ⑦ 19 － 6

3位決定戦

- 18 － 16
- KSAC／西宇治高A／日吉丘LC・A／日吉丘LC・B／西宇治高B／ハンドインハンド

（1位）スーパースターズ　（2位）ナガオカWHC　（3位）KSAC　（4位）ハンドインハンド

●ジュニアの部

優　勝

- くれたけ 17 － 8 サンピア城陽
- 笑福亭一門 15 － 5 林家一門
- 12 － 11

3位決定戦

- サンピア城陽／林家一門

（1位）くれたけ　（2位）笑福亭一門　（3位）サンピア城陽

列島縦断　【大阪府の巻】

21世紀への橋渡し

大阪ハンドボール協会理事長　中村博幸

'98年4月より理事長を任され、いきなりその年の8月末にアジア女子ジュニア選手権大会を依頼され、五里霧中の手探り状態で取り組みました。競技運営に関しては、一昨年の「なみはや国体」の経験を生かして不安はないものの、大阪初の国際大会ということで、その他の不安要素が山積みとなりましたが、日本協会をはじめ周りの関係の方々のお陰を持ちまして、無事大会を成功におさめられたことは、今後の基盤として、ひとまず前向きに一歩を踏み出せたと喜んでおります。国際大会は開催地の手腕が問われるものの、日本協会との二人三脚の協力が不可欠であると思っております。お互いが会議の場へ出向き、遠慮せずに不安要素を一つ一つ解消していくことが必要であることを強く感じました。

ボランティア精神で

常々大阪協会では、幸田良一会長の方針で「ボランティアでやっているのだから、仲良くやりましょう」をモットーにハンドボールを好きだからこそできる、ボランティア精神で大会運営等にあたっております。大阪協会は大所帯ではありますが、各連盟の組織力は年々育まれて強固なものとなっており、各種大会に対しては、それぞれの母体組織の不足部分へ他の連盟からお手伝いに参加するという方針で現在回っております。

たとえば、昨年の12月末に堺市で行われましたJOCジュニアオリンピックカップでは、中学生の期待の星たちが熱戦を繰り広げてくれましたが、中体連が基盤となるこの大会の補助員に、現在高校ハンドボール界で活躍中の元JOCジュニアオリンピックカップ経験者が多くいる四天王寺・此花学院・桃山学院の部員たちをはじめ、数多くの高校生がお手伝いで参加してくれました。もちろん高校の先生方や実連、社会人の方々も多数お手伝いいただきました。また3月末には大阪で初めての高校選抜大会を控えております。この大会は多数の役員・スタッフが必要なため、高体連で不足している部分を、中体連・実連・社会人連盟からのお手伝いで、運営していく方向で動いております。

若い世代の選手たちに最高の感激を持ち帰ってもらい、継続した情熱を燃やし続けてもらえるよう、お世話したいと思っております。これらの一つ一つの積み重ねが次の大会への礎となるよう、また常に新鮮に取り組めるよう工夫が必要と考えております。

観客動員を

多数の競技の国際試合が目白押しの大阪の地で、「いいものはいい」と、うならせるようスポーツ愛好家の目をハンドボールへ向けさせるには、かなりアピール度が必要となります。大阪での日本リーグ等の試合では会場がガラガラなのに高校の決勝戦は、超満員になるのはなぜ？　という問題がよく話題に出てきます。そこで、その要因は……

・試合のレベル（高校生としては）が高い。僅差の勝負で接戦になることが多い。感激性が高い。
・応援の数が多い（同じ学校の他のクラブの生徒、卒業生、保護者、出身中学の後輩）。
・他府県からの関心も高い。
・新しい選手が出て毎年新鮮である（スター選手も時々いる）。

これを実業団レベルにあてはめてみると、

・観衆を魅了するようなレベルの試合が必要。
・スター性のある選手が必要。
・観客動員には、つながりが必要。
・マスコミへの働きかけが必要。

以上のことをふまえ、大阪協会として現在対応策として考えていることは、観客動員の問題です。奥浜清副会長を中心に次年度から、大阪高体連主催の試合と日本リーグの試合を同一会場で行い、観衆と興奮をそのまま会場に残して盛り上げようと企画しております。高校の試合は、全国大会にあわせて日程を組み、動かしがたいものがあるので、日本リーグ側の協力がなければ実現しません。現在行われている実業団の大きな大会の日程は、一番層の厚い中学・高校の学校現場とのズレがあり、中・高校生が観戦・参加協力できないものが多いのです。一般客（サポーターも含む）が多ければ問題はないのですが、今の日本のハンドボール界の現状を踏まえ対策を練っていくべきであろうと考えます。

二人三脚から四人五脚へと

大阪協会では二人三脚（日本協会と）を三人四脚（大阪の行政と）へ、三人四脚を四人五脚（AHFと）へと徐々にですが、その幅を広げ、東アジア大会へとコマを進めていきたいと思っております。特に大阪府・大阪市の行政とのつながりを大切にし、競技団体との連繋プレーがことさら必要となり、足並みを揃えて取り組まなければなりません。

ただ2008年開催予定の「大阪オリンピック」誘致が閣議決定されて、これから本格的に誘致活動がなされるわけですが、中国（北京）からの開催意思表示で、今後の行方に大阪のオリンピック招致局には不安が走り、大問題となっております。それが、各種競技団体にどのような影響を及ぼしてくるのか、読みづらいのが現状です。

大阪協会としては、ひとまずオリンピック開催を頂点として、基礎づくりの段階はできたと思います。何段のピラミッドになるかは、わかりませんが、一つ一つの大会を成功させ、土台の上に積み重ねていくことによって21世紀への橋渡しができ、そびえ輝くピラミッドになればと思っております。今後も関係各位のご協力、ご声援を糧に努力していきますので、よろしくお願い申し上げます。

（岡山県の巻のその2は次号に掲載します）

ハンドボール競技選手のための体力測定項目および評価

医科学委員会　田中　守

ハンドボールの競技力を決定する要因の一つとしての体力を客観的に把握することは、競技力向上のために極めて重要なことであり、トレーニング目標の設定並びにトレーニング手段の作成にも有用なものとなる。

従来より、さまざまな体力測定が行われてきているが、文部省などが提示する一般的体力・運動能力テストが多く、競技スポーツの特性を踏まえた専門的体力測定法の開発が望まれていた。本委員会では、1985年ハンドボール競技の特性を踏まえた3段階による「ハンドボール競技適性診断の手引き」を作成し、翌年12歳から23歳のハンドボール選手を対象に3915名のデータを収録した測定結果を公表している。しかし、その後の現場での活用や競技力向上の評価基準設定には至らず生かされていないのが実状である。

そこで今回、日本オリンピック委員会での体力測定項目の見直しに伴い、本委員会でも新たに試案について検討中である。以下にその原案を提示するが、あくまでも確定されたものでないことを明示しておきたい。

1 測定項目選定について配慮した事項

体力測定項目の選定にあたって次の点を配慮した。

(1)ハンドボールの競技特性を体力的に捉え検討すること。

(2)各体力要素ごとに、なるべく簡易に、容易に、精度よく測定できること。

(3)フィールドテストを中心とする構成にすること。

(4)一般的体力との関連性も検討できるようにすること。

以上の点を踏まえ、これまでの科学研究論文や現場での様々な体力測定、体力トレーニングを参考に、以下の体力測定項目を選定した。

2 体力測定項目試案

(1)形態項目

ハンドボール競技では、2m×3mのゴールを死守するゴールキーパーにとっても、防御での大きな壁を作ったり選手間の隙間を割って切り込む相手選手を体で阻止する防御プレーヤー、あるいはその防御壁を高さや強引な切り込みで撃ち破る攻撃プレーヤーなどコートプレーヤーにとっても、形態的な大きさが多大な貢献を果たしていることは言うまでもない。従って、高さ、長さ、太さの観点から次の項目を選定した。

①長育：身長、上肢長、手長、中指長、下肢長

②幅育：指極、肩峰幅、手幅

③周育：肩囲、殿囲、大腿囲、三角筋囲、上腕囲（伸展、屈曲）、前腕囲

④量育：体重、体脂肪率（皮下脂肪厚法）、除脂肪体重

(2)機能項目

ハンドボールゲームでは、攻防戦の中にすばやく激しい無酸素的動き（ATP－CP系、ATP－乳酸系）とゆっくりとした有酸素的動き（ATP－酸化系）が繰り返し行われる間欠的運動の特徴を持つ。

激しい動きでは、高い筋力やスピード・パワー・敏捷性そしてこれらをより巧みに発揮する能力が要求され、ゆっくりとした動きの時により早い回復力（ATPとCPの回復、疲労物質の除去）が要求される。平均的には、激しい無酸素的動きが1回当たり約3秒、1分間に10秒程度行われ、1分間に約50秒が歩行（約30秒）や軽いランニング（約17秒）に使われ、10分間の休憩をはさんで前後半それぞれ20（中学生）～30分、計40～60分行われる。

①無酸素パワー：力×スピードで表されるパワーは、求められる動きによって力型かスピード型に分けられる。その動きが技術性を加味した調整力を伴うものであり、走・跳・投と身体接触を伴う動きに概ね整理されることから次の項目を選定した。

走パワー：30m走、50mジグザグドリブル走、50m方向変換走、50mシャトル走

跳パワー：立ち5段跳び、垂直跳び、3歩助走付片足跳び

投パワー：ハンドボール投げ(Step Throw、Jump Throw、Sitting Throw)

（脚伸展パワー：自転車駆動による最大無酸素パワー）

②筋力：攻防の中で、ゴールエリアライン付近で頻繁に見られる身体接触では、力型のパワーとりわけ大きな筋力が要求されることから次の項目を選定した。

握力、背筋力、上体起こしテスト、（脚伸展筋力）

（フリーウエイトによるベンチプレス、ハイクリーン、ツーハンズカール、フルスクワットは可能な範囲で）

③持久力：1試合を通じて心拍数は150～180拍／分を推移し、20～30分間を前後半、間欠的に動き続けることが要求される。中には、速攻の繰り返しのように数十秒間に亘って走り続けたり、わずかな休息後に再び激しい動きが必要なケースも比較的多く、有酸素性および無酸素性のいずれの持久力も要求されることから次の項目を選定した。

有酸素性持久力：
ＹＯ－ＹＯ持久力テストorシャトル持久力テストor12分間走

無酸素性持久力：
15－30－15ｍ３往復走or40秒走
15－30－15ｍ（休息15秒）×７セット間欠走

④柔軟性：関節の可動性として評価されている柔軟性は、より大きな動きや効率の良い動きを可能にするため、あるいは大きな衝撃をやわらげるため、また怪我の予防のためにも必要であることから次の項目を選定した。

長座位体前屈、左右開脚

以上の項目は、測定方法や測定用具、測定スペースの問題、さらには次に示す評価法の問題も含めて、検討の余地がかなり残されているといえよう。

３ 評価法

体力測定により体力を客観的に把握し、次の段階へ向けてトレーニング目標を設定するためには、体力評価が極めて重要なものとなる。現段階では、前記の測定内容と測定方法を十分に検討した上で、全日本、実業団、大学、全日本ジュニア、高校、中学、小学、そして男女のそれぞれについてのデータ収集が必要であり、評価法の設定には至っていない。

（注）本誌記載の体力測定項目は平成９年度以降、男子・女子ナショナルチームに試行中である。

【参考文献】

（１）高松薫、小倉文雄、奥田昌史、勝田茂（１９８６）ホッケー競技選手のフィールドテストによる体力測定法・評価法－その１体力測定法の試案－、日本体育協会スポーツ医科学研究報告集、２７１－２７８。

（２）田中守（１９９４）ハンドボール競技特性からみた体力づくりの方向、ハンドボール、３３８：２７－２８。

（３）田中守、佐伯敏亨、西田寛文、田中宏暁、進藤宗洋（１９９５）ハンドボール競技選手におけるフットワーク能力の評価法の検討、日本体育学会第46回大会号、Ｐ５４７。

（４）田中守、樋口幸治、溝岡賀子、中根智子、田中宏暁、進藤宗洋（１９９７）ハンドボールゲーム中の動きの質・量と心拍応答、福岡大学体育学研究27（２）：１－13。

（５）田中守、溝岡賀子、半田信吾、田中宏暁、進藤宗洋（１９９７）ハンドボール競技に必要な全身持久力に関する研究－間欠的走パワーの持続能力について－、福岡大学体育学研究28（１）：９－23。

★学校体育ハンドボール検討委員会

簡易ハンドボール指導の実践報告書総括

ハンドボールのゲームの教材づくりについて

小林和子（山形県長井市立長井南中学校）

大西武三（筑波大学）

角　紘昭（愛知県名古屋市立東山小学校）

佐藤　靖（秋田大学）

1 はじめに

人間の最も器用な手でボールを扱い、走・跳・投がバランスよく含まれるハンドボールは、児童や生徒の体力・運動能力の低下が指摘される今日にあって、子どもたちの発育・発達を促すのに適した教材である。また、教材づくりや戦術学習が容易であるので、体系的なゲームの学習が明らかになれば、子どもたちの実態に即し、より魅力的で効果的な学習を展開することができよう。

さらにボールの運動は、小学校の子どもたちにとって人気の高い領域である。とりわけ小学校期における確かな戦術学習の体験は、時間を経て、生涯スポーツとしての有意義な経験に高まる可能性を有する。

そこで、小学校における貴重なハンドボールの授業実践事例をもとに、ハンドボールのゲームの教材づくりについて整理しようと試みた。

2 教材づくりの視点

①物的条件（実践事例より）
〈資料1〉

②ゲームの行為に関する条件
（実践事例より）〈資料2〉

③児童の実態（実践事例より）
〈資料3〉

④ゲームの教材づくりの工夫
〈資料4〉

教材づくりについての視点は数多くあると思うが、今回は小学校1年生から6年生までの授業実践をもとに、事例で課題とされた項目を「易しくわかりやすい情況」から「複雑な情況」の順に並べた。それをさらに、シュート局面と中盤局面に分けて整理した。シュート局面については、表の右に移行するに従って、中盤の要素も入ってきているが、厳密に分けることは難しいと思われる。さらには徐々にミニハンドボールのゲームに近づいていくことを考えれば、2つの局面が、融合しつつ発展的な内容になっていくことが望ましいと思われる。仮に学年が進むに従って、より複雑な戦術学習が展開されることになれば、シュート局面を作り出すための、組立局面を強調したゲーム教材も考えられるだろう。

とりわけ、今日的課題として「生きる力」が重視されていることから、子どもたちと指導者が教材を介して関わり合い、諸条件に応じ

資料2

ゲームの行為に関するルール

	ボールのあつかい方		相手に対する動作	ポジション
	歩数について	ドリブルについて		
萬原	3歩までよい	*	ボールを持っている人には触らない	*
高橋	明らかに歩いた場合に笛を吹いて止める	*	明らかに押した場合に、笛を吹いて止める	ゴールキーパーを固定化しない
五十嵐	*	キャッチミス後、ドリブルをしても、ダブルドリブルとしない	できるだけ身体接触を少なくして守るようにし、フリースローをなくす	ゲーム中、ゴールキーパーの交替は、自由に行ってよい
三浦	3歩までよい	ダブルドリブルは、ポートボールに準ずる	わざと押したり、けったり、たたいたりした場合、その場から相手ボール	得点したものがゴールキーパーになる
筒井	ボールを持ったら3歩動く	ドリブルはワンドリブルまでとする	*	
塩幡	歩数制限なし ↓ 5歩までよい	*	危険な行為はしない	*
和田	5歩までよい	ダブルドリブルの禁止	押したりぶつかったりしたら、その場でフリースロー	グリッドコートでのゲームでは、攻防の役割分担
鈴木	*	*	*	得点した児童がゴールキーパーになる
野口	バスケットのピボット可	ドリブルなしゲーム ↓ ドリブルありゲーム	*	*
下瀬	*	*	*	CP8人の場合、攻撃4人、防御4人に分かれセンターラインをこえない

ゲームの物的条件

資料1

学年	1年	2年	3年	3・4年	4年	5 年				6 年			
実践報告	沖縄；蔦原	秋田；高橋	福井；五十嵐	福島；鳥中	岩手；三浦	○	愛知；筒井	茨城；塩幡	宮崎；和田	○	山形；鈴木	茨城；野口	山口；下瀬
ゴール	カラーコーン（75）	跳び箱	・高跳びスタンド（180） ・正規 ・180 × 270（手作り）	柔道畳一畳（横）	200 × 300	福井；五十嵐に同じ	100 × 200	塩ビ（手作り）135×250～180×250 <可動式>	塩ビ（手作り）200 × 300 <軽量化>	福井；五十嵐に同じ	200 × 300	・200×300 ・高跳びスタンド（180）	・200×200 ・180×200（重り、ひもつき棒）
ボール	*	ハンドボール1号球	・ハンドボール1号球 ・スポンジ製ボール	ハンドボール1号球	ゴムボール		ハンドボール1号球	・ソフトバレー大、小 ・ドッジボール1号、0号	*		*	ハンドボール1号球	ハンドボール1号球（空気圧低く）
フィールド	a） b）		<校庭> 正規の小学生用コート <体育館> ・全面1コート ・横に区切って2コート					a）コートのラインなし b） c）				a） b）	
ゴールエリア	a）なし b）直径2mの半円	直径5～6mの円	・正規 ・5m	バスケットボールの3ポイントエリア	4m		アウターゴールラインと平行に4m	b）半円 c）半楕円 4～5.5m	*		正規	a）変動 b）5m	6mの半円
プレーヤーの数	5人	*	・8人 ・ミニゲーム 4～5人	5人	5人		4人（男2、女2）	5～6人	5人		5～6人	・4人 ・5人 ・8人	8人

（注）報告書から読み取ることができなかった項目については*

て工夫することが望まれる。

3 まとめ

「力一杯シュートを打つことができる」「ひとりひとりのよさを生かすことができる」「果敢にボールに向かって、シュートを阻止する」など、子どもたちにとってのハンドボールの魅力は枚挙にいとまがない。ハンドボールのゲームの教材づくりでは、そうしたハンドボールならではのものを見失わないようにしながら、できないことについては、極めてなだらかな坂(できるようになるための教材)を用意していくことが必要であろう。ゲームの教材として、そのかたちがいろいろに変わる可能性もある。それゆえゲームの教材づくりにおいては、ねらいを明確にすることが大事であろう。

何よりもゲームの教材づくりは、実践から作り上げるものでありたい。今後更に実践をもち寄って、体系的なゲーム学習について明らかにできれば幸いに思う。

最後に、実践報告とともに寄せられたビデオには、生き生きした子どもたちの動きが、グラウンドや体育館に響きわたる歓声とともに観察され、実践された先生方の熱意に思いを馳せたところです。諸先生のご尽力に、心より感謝申し上げます。

【参考文献・資料】

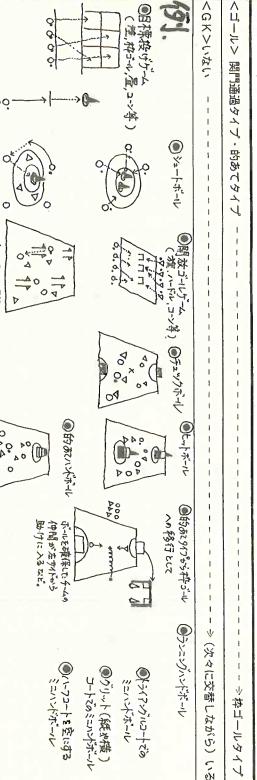
(1)(財)日本ハンドボール協会(1997)「簡易ハンドボール指導の実践報告書」

(2)学校体育ハンドボール検討委員会(編集、1998)「ゲームの様相」(ビデオ)

(3)唐木國彦(監訳、1993)「ボールゲーム指導事典」第8章ハンドボール(佐藤靖)、大修館書店、358―359頁

児童の実態

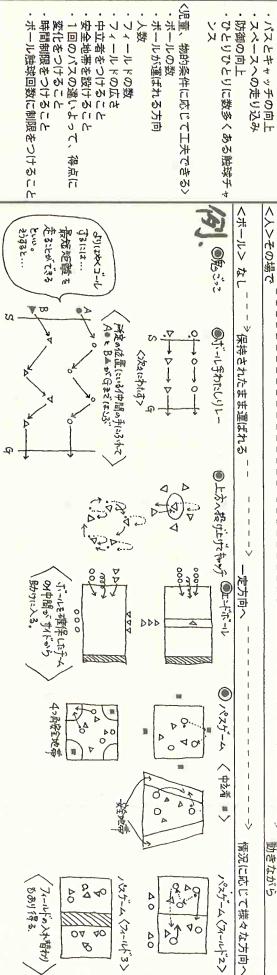
資料3

学年	児童の準備状況
1年	・ボールを扱う能力の差が大きい。 ・ボールを怖がる児童がいる。
2年	・1年時で、ボールけりゲーム、ドッジボールなどのボール遊びに親しんでいる。 ・ボールが跳んでくるのが怖いと感じている児童がいる。 ・助走をして片足で踏み切る運動は、ほとんどができるようになってきた。 ・力強く片手で投げるオーバーハンドスローは数名しかできない。 ・手だけで取ることは難しい。また正確に投げられないと取り損ねることが多い。
3・4年	・ボールを握ることができる8/10名 ・ボールを握ったまま、腕を振りきって投げることができる5/10名 ・ステップシュートが打てる7/10名 ・1対1で、フェイントでディフェンスをかわし、ジャンプシュートがうてる3/10名 ・スポーツテストの結果、3年生は県の平均値、4年生女子は全員平均値以下である。
4年	・4年女子は、普段から運動を好まない傾向にある。男子は好んで運動に親しんでいる。 ・ラインサッカー、ポートボール、タッチフットボールを学習している。 ・ハンドボールクラブがある。 ・ポートボールの学習で、基本的な技能、類似した動きは、みにつけている。 ・基本の運動で、投げることやキャッチすることを経験している。 ・個人差、男女差がある。
5年	・「身体接触が許される」ことが理解しにくい。 ・ドッジボール経験が多いため、パスキャッチが胸やおなかのあたりでボールを抱えるようなとり方をすることが多い。 ・シュートがキーパーの正面にいきがちである。 ・ジャンプシュートをする足が逆になる場合が多い。 ・投げる、捕るというボールの扱いが未熟で、空いているところへ動くことができず空いている人を捜すことができないため、だんご状態になることがよくある。 ・ボールに当たると痛い、相手とぶつかるのが怖いと感じる場合がある。 ・スポーツ少年団に入っているものといないものの体力、運動技能の差が大きい。 ・女子は、体育学習以外で運動する機会が少なく、ボールを使って遊ぶのは希である。 ・ソフトボール投げでは、個人差が大きく全体的には投力が落ち込んでいる。 ・ジグザグドリブルは、男女差が大きい。 ・ボールを使って遊ぶのは、男子が圧倒的に多い。 ・体力低下を強く感じ、外で遊ぶことに興味・関心をみせない子供が増えつつある。 ・女子は、授業中ボールに触れる回数が少なく、どう動いていいか分からないこともあって、技能が高まらないことが多い。
6年	・ハンドボールの予備知識はほとんどない。 ・ドッジボール、ソフトボール、サッカー、バスケットボールを経験してきている。 ・体格、投力に個人差、男女差がある。 ・動く相手にパスをしたり、動きながらキャッチするのが苦手である。 ・踏み台昇降、反復横とび、50m走、ソフトボール投げが、県平均を下回っている。 ・5年生までに、バスケットボールやサッカー等のボール運動の学習を経験している。 ・とりわけボール運動において、技能に格段の差がある。 ・休み時間、男子はサッカーやゴムボール野球、女子は室内で遊ぶ場合が多い。 ・走力は平均だが、ソフトボール投げや斜め懸垂腕まげなどの腕力や筋力を使う運動に弱い。 ・ボールを扱う技能はある程度できているが、ボールを保持していない場合の動きが課題である。

ゲームの教材づくりの工夫

資料4

ゲーム 諸条件の変化 / 局面	
	防御者がいない ------（防御者がいる　）------→ 攻守混合
	歩数制限がない ------→ ある
	ドリブルはしない ------→ してもよい

シュート局面

<ねらい>
- カー杯打つシュート
- ねらって打つシュート
- ひとりひとりに数多くあるシュートチャンス

<児童、物的条件に応じて工夫できる>
- ゴール設置位置
- ゴール設置数
- ゴールを何にするか
- 人数
- フィールドの広さ
- フィールドのかたち
- １回のシュートの違いによって得点に変化をつけること
- 時間制限をつけること
- 触球回数に制限をつけること
- ボールの数
- ボールが運ばれる方向

<ゴール> 関門通過タイプ・的あてタイプ ------→ 枠ゴールタイプ

<ＧＫ>いない ------→（次々に交替しながら）いる

中盤局面

<ねらい>
- パスとキャッチの向上
- スペースへの走り込み
- 防御の向上
- ひとりひとりに数多くある触球チャンス

<児童、物的条件に応じて工夫できる>
- ボールの数
- ボールが運ばれる方向
- 人数
- フィールドの数
- フィールドの広さ
- 中立者をつけること
- 安全地帯を設けること
- １回のパスの違いよって、得点に変化をつけること
- 時間制限をつけること
- ボール触球回数に制限をつけること

<人>その場で ------→ 動きながら

<ボール> なし ---→ 保持されたまま運ばれる ---→ 一定方向へ ---→ 情況に応じて様々な方向へ

各地学生秋季リーグ戦結果

北海道学生

■男子1部

函館大 27－15 函館教大
札幌大 29－24 小樽商大
道都大 34－22 函館教大
函館大 41－10 北海道大
札幌大 32－12 函館教大
函館大 40－22 小樽商大
札幌大 24－17 北海道大
道都大 27－22 小樽商大
小樽商大 27－21 北海道大
函館大 32－23 道都大
北海道大 15－15 函館教大
道都大 21－20 札幌大
小樽商大 24－20 函館教大
道都大 30－16 北海道大
函館大 35－24 札幌大

【順位】①函館大②道都大③札幌大④小樽商科大⑤北海道教育大函館⑥北海道大

■男子2部

【順位】①北見工大②北海学園大③室蘭工大④札幌学院大⑤酪農学園大⑥釧路公大

■男子3部

【順位】①北海道工大②帯広畜産大③旭川大④北里大

■女子

帯広畜産 10－9 酪農学園
北教旭川 32－8 北海道大
北女大 37－4 北星大
帯広畜産 20－18 北海道大
北女大 22－7 帯広畜産
北海道大 19－10 北星大
北女大 16－8 帯広畜産
北教旭川 25－1 北星大
北教旭川 14－4 酪農学園
北女大 27－12 北海道大
北教旭川 24－7 帯広畜産
酪農学園 10－3 北星大
帯広畜産 30－4 北星大
酪農学園 14－10 北海道大

【順位】①北海道教育大旭川②北海道女大③帯広畜産大④酪農学園大⑤北海道大⑥北星学園大

東北学生

■男子1部

東北福祉 21－19 東北学院
仙台大 21－19 東北学院
東北学院 25－23 秋田大
東北学院 28－18 山形大
東北学院 35－15 福島大
東北福祉 16－14 仙台大
東北福祉 28－17 秋田大
東北福祉 27－13 山形大
東北福祉 35－17 福島大
仙台大 32－19 秋田大
仙台大 35－11 山形大
仙台大 26－21 福島大
秋田大 29－16 山形大
秋田大 32－24 福島大
山形大 27－18 福島大

【順位】①東北福祉大②仙台大③東北学院大④秋田大⑤山形大⑥福島大

■男子2部

【順位】①岩手大②東北学院大工学部③東北大④東北工大⑤盛岡大⑥北里大獣医

■男子3部A

【順位】①弘前大②宮城教育大③八戸工大

■男子3部B

【順位】①日大工学部②奥羽大③石巻専修大

■女子A

東北福祉 33－18 秋田大
東北福祉 29－14 仙台大
東北福祉 28－8 岩手大
秋田大 22－13 仙台大
秋田大 24－8 岩手大
仙台大 21－14 岩手大

【順位】①東北福祉大②秋田大③仙台大④岩手大

■女子B

【順位】①福島大②北里大獣医③宮城教大

関東学生

■男子1部

日大 21－16 筑波大
早大 26－21 順天大
法大 22－21 中大
日体大 19－18 国士大
早大 24－24 日大
中大 23－16 国士大
筑波大 25－16 順天大
日体大 22－21 法大
日体大 29－21 順天大
日大 24－23 中大
国士大 34－31 早大
筑波大 32－22 法大
中大 27－19 順天大
早大 29－19 法大
筑波大 30－14 国士大
日体大 24－23 日大
順天大 18－17 法大
国士大 27－20 日大
中大 30－21 早大
筑波大 35－25 日体大
日大 26－22 法大
国士大 26－19 順天大
中大 32－16 筑波大
早大 30－22 日体大
日大 31－20 順天大
法大 25－17 国士大
日体大 21－20 中大
筑波大 29－26 早大

【順位】①筑波大②日本体育大③日大④中央大⑤早稲田大⑥国士館大⑦法政大⑧順天堂大

■男子2部

【順位】①拓殖大②東海大③国際武道大④明治大⑤東京学芸大⑥慶応大⑦茨城大⑧青山学院大

■男子3部

【順位】①横浜商科大②武蔵工大③明星大④横浜国大⑤東京経済大⑥神奈川大⑦立教大⑧東京理科大

■男子4部

【順位】①明治学院大②芝浦工大③産能大④専修大⑤東京大⑥一橋大⑦創価大⑧千葉大

■男子5部

【順位】①杏林大②東洋大③横浜市大④東京農大⑤帝京大⑥東京農工大⑦上智大⑧大東文化大

■男子6部

【順位】①学習院大②防衛大③東京工大④亜細亜大⑤都立大⑥都留文科大⑦駒沢大

■男子7部

【順位】①宇都宮大②独協大③城西大④玉川大⑤武蔵大⑥山梨大⑦文教大⑧群馬大

■男子8部A

【順位】①東京工芸大②国学院大③日本工大④山梨学院大⑤昭和薬科大⑥白鴎大⑦東京工科大

■男子8部B

【順位】①埼玉大②北里大③関東学院大④帝京平成大⑤千葉工大⑥駿河台大

■女子1部

日体大 25－15 国士大
筑波大 22－17 日女体大
東女体大 23－21 日女体大
筑波大 22－16 日女体大
日体大 22－21 国士大
茨城大 20－19 東女体大
日体大 15－12 日女体大
東女体大 21－19 国士大
筑波大 29－23 茨城大
筑波大 35－15 茨城大
日女体大 15－14 日体大
東女体大 30－7 国士大
筑波大 25－12 国士大
東女体大 17－17 日体大
茨城大 20－19 日女体大
茨城大 27－17 日女体大
筑波大 26－14 国士大
東女体大 20－18 日体大
東女体大 20－15 日女体大
茨城大 29－20 国士大
筑波大 31－16 日体大
茨城大 23－16 国士大
東女体大 19－18 日女体大
筑波大 24－22 日体大
日女体大 17－16 国士大
茨城大 26－23 日体大
筑波大 24－20 東女体大
茨城大 26－21 日体大
国士大 20－15 日女体大
筑波大 26－20 東女体大

【順位】①筑波大②茨城大③東京女子体育大④日本体育大⑤日本女子体育大⑥国士館大

■女子2部A

【順位】①東海大②東京学芸大③聖徳大④玉川大⑤昭和薬科大⑥順天堂大⑦都留文科大⑧千葉明徳短大

■女子2部B

【順位】①東京理科大②東京医科歯科大③大東文化大

東海学生

■男子1部

名城大 25－14 岐阜大
中京大 40－17 名古屋大
愛教大 29－15 愛知大
中部大 26－25 愛学大
中京大 38－27 愛知大
名城大 36－13 名古屋大
愛教大 24－24 中部大
愛学大 26－22 岐阜大
愛教大 38－19 岐阜大
愛学大 40－24 名古屋大
名城大 27－13 愛知大
中京大 33－29 中部大
愛学大 23－21 愛知大
中京大 35－26 岐阜大
名城大 29－17 中部大
愛教大 34－24 名古屋大
中部大 49－23 岐阜大
愛知大 34－28 名古屋大
名城大 28－15 愛学大
中京大 36－26 愛教大
愛知大 24－22 岐阜大
中部大 41－30 名古屋大
中京大 40－22 愛学大
名城大 39－12 愛教大
岐阜大 27－22 名古屋大
中部大 28－17 愛知大
愛教大 23－20 愛学大
名城大 30－26 中京大

【順位】①名城大②中京大③中部大④愛教大⑤愛知学院大⑥愛知大⑦岐阜大⑧名古屋大

■男子2部

【順位】①名古屋学院大②名古屋経済大③名古屋工大④東海学園大⑤南山大⑥朝日大⑦豊田高専

■男子3部

【順位】①愛知大名古屋②岐阜経済大③豊橋技術科学大④名古屋商科大⑤静岡大⑥日本福祉大⑦東海大海洋学部

■男子4部

【順位】①三重大②滋賀大③岐阜聖徳学園大④常葉学園大⑤愛知学泉大⑥愛知医科大⑦皇學館大

■女子1部

中京女大 40－9 桜花大
中京大 22－10 岐阜大
文理短大 24－20 愛教大
文理短大 31－20 桜花大
中京女大 43－11 岐阜大
桜花大 23－22 岐阜大
中京大 22－17 愛教大
中京大 21－10 文理短大
中京女大 30－17 愛教大
中京大 28－16 桜花大
愛教大 23－15 岐阜大
中京女大 43－14 文理短大
愛教大 30－24 桜花大
文理短大 34－21 岐阜大
中京女大 26－17 中京大
【順位】①中京女大②中京大③名古屋文理短大④愛知教育大⑤桜花学園大⑥岐阜大

■女子2部
【順位】①南山大②岐阜聖徳大③常葉学園大

北信越学生

■男子1部
金沢工大 22－13 新潟大
金沢工大 33－5 金沢大
金沢工大 30－8 信州大
金沢工大 38－10 長野大
新潟大 31－15 金沢大
新潟大 30－17 信州大
新潟大 22－14 長野大
金沢大 19－16 信州大
金沢大 18－17 長野大
信州大 24－20 長野大
【順位】①金沢工大②新潟大③金沢大④信州大⑤長野大

■男子2部
【順位】①富山大②福井大③上越教育大④富山国際大

■女子
新潟大 23－16 金沢大
新潟大 29－15 富山大
新潟大 22－13 仁愛短大
新潟大 27－7 信州大
新潟大 25－10 上越教大
金沢大 26－13 富山大
金沢大 25－15 仁愛短大
金沢大 28－10 信州大
金沢大 39－3 上越教大
富山大 23－22 仁愛短大
富山大 17－14 信州大
富山大 24－6 上越教大
仁愛短大 21－9 信州大
仁愛短大 24－9 上越教大
信州大 11－8 上教大
【順位】①新潟大②金沢大③富山大④仁愛短大⑤信州大⑥上越教育大

関西学生

■男子1部
大体大 37－9 関西学院
桃山学院 27－20 近大
京産大 31－16 立命大
関西外語 30－29 大経大
京産大 24－24 近大
大経大 31－23 立命大
大体大 31－15 関西外語
桃山学院 29－15 関西学院
関西学院 31－30 京産大
大経大 28－26 近大
大体大 41－9 立命大
桃山学院 30－20 関西外語
大経大 29－24 関西学院
桃山学院 33－16 立命大
大体大 33－19 近大
京産大 33－25 関西外語
近大 28－27 関西学院
立命大 28－21 関西外語
大体大 25－18 大経大
桃山学院 31－23 京産大
立命大 27－27 関西学院
近大 32－29 関西外語
桃山学院 36－19 大経大
大体大 31－20 京産大
関西外語 26－25 関西学院
立命大 25－24 近大
京産大 26－23 大経大
大体大 34－12 桃山学院
【順位】①大阪体育大②桃山学院大③京都産業大④大阪経済大⑤立命館大⑥近畿大⑦関西外語大⑧関西学院大

■男子2部
【順位】①天理大②神戸国際大③龍谷大④同志社大⑤神戸大⑥関西大⑦大阪大

■男子3部
【順位】①大阪教育大②京都大③甲南大④追手門学院大⑤大阪学院大⑥佛教大⑦大阪府大

■男子4部
【順位】①大阪市大②大阪産大③神戸学院大④和歌山大⑤姫路独協大⑥京都府医科大⑦京都大医学部

■男子5部
【順位】①京都工芸繊維大②奈良教育大③大阪工大④京都教育大⑤奈良大⑥大阪経法大⑦滋賀大

■男子6部
【順位】①大阪外語大②大阪電気通信大③京都府大④甲子園大⑤英知大⑥神戸商船大⑦大阪薬科大⑧近畿大農学部⑨兵庫教育大⑩高野山大

■女子1部
大体大 40－15 京教大
大教大 36－20 立命大
武庫川女 37－6 関西女短
天理大 37－17 龍谷大
天理大 34－16 京教大
武庫川女 38－15 立命大
大教大 36－11 関西女短
大体大 26－14 龍谷大
龍谷大 32－14 京教大
大体大 24－15 武庫川女
大教大 27－21 天理大
立命大 39－20 関西女短
天理大 33－22 立命大
大教大 35－16 京教大
大体大 34－11 関西女短
武庫川女 29－15 龍谷大
大教大 27－23 龍谷大
天理大 27－18 関西女短
立命大 32－26 京教大
武庫川女 39－10 京教大
大体大 35－22 立命大
大体大 28－15 天理大
龍谷大 21－17 関西女短
武庫川女 21－17 大教大
関西女短 23－21 京教大
立命大 31－23 龍谷大
武庫川女 33－15 天理大
大体大 23－18 大教大
▼プレーオフ準決勝
大教大 20－19 武庫川女
▼プレーオフ決勝
大教大 21－18 大体大
【順位】①大阪教育大②大阪体育大③武庫川女大④天理大⑤立命大⑥龍谷大⑦関西女短大⑧京都教育大

■女子2部
【順位】①関西外語大②成蹊女短大③園田学園女大④大阪大⑤関西大⑥滋賀大⑦関西学院大

■女子3部
【順位】①和歌山大②追手門学院大③大阪市大④奈良教育大⑤大阪薬科大⑥兵庫教育大⑦甲南大⑧大阪外語大⑨大阪府大⑩神戸大

中四国学生

■男子1部
広島大 25－24 愛媛大
広島大 27－16 松山大
広島大 34－18 近畿大
広島大 28－18 岡山大
広島経大 19－17 広島大
広島経大 28－14 松山大
広島経大 24－19 近畿大
広島経大 22－15 岡山大
愛媛大 19－14 広島経大
愛媛大 15－15 松山大
愛媛大 20－20 近畿大
愛媛大 23－17 岡山大
松山大 23－20 近畿大
松山大 21－16 岡山大
近畿大 29－12 岡山大
【順位】①広島大②広島経済大③愛媛大④松山大⑤近畿大⑥岡山大

■男子2部
【順位】①香川大②山口大③高知大④徳島文理大⑤川崎医療福祉大⑥島根大

■男子3部
【順位】①鳥取大②徳島大③岡山商科大④広島工大⑤四国大

■男子4部
【順位】①広島修道大②四国学院大③徳山大

■女子1部
岡山県大 25－16 川崎医大
岡山県大 27－18 岡山大
岡山県大 27－20 広島大
岡山県大 28－12 愛媛大
川崎医大 22－10 岡山大
川崎医大 14－14 広島大
川崎医大 23－16 愛媛大
岡山大 25－24 広島大
岡山大 17－16 愛媛大
広島大 22－12 愛媛大
【順位】①岡山県立大②川崎医療福祉大③岡山大④広島大⑤愛媛大

■女子2部
【順位】①鳴門教大②香川大③四国大

九州学生

■男子1部
福岡大 29－21 福岡教大
福岡大 36－20 熊本学園
福岡大 29－22 沖縄国大
福岡大 22－21 東和大
福岡大 35－11 九産大
東和大 23－17 熊本学園
東和大 24－24 福岡教大
東和大 30－22 沖縄国大
東和大 26－15 九産大
福岡教大 33－26 熊本学大
福岡教大 32－27 沖縄国大
福岡教大 33－20 九産大
熊本学園 34－23 沖縄国大
沖縄国大 35－17 九産大
九産大 28－26 熊本学園
【順位】①福岡大②東和大③福岡教育大④沖縄国際大⑤熊本学園大⑥九州産業大

■男子2部
【順位】①琉球大②西南大③九州大④熊本大⑤大分大

■男子3部
【順位】①宮崎産経大②鹿児島大③長崎大④第一経大⑤熊本県立大⑥産業医大

■男子4部A
【順位】①沖縄大②日本文理大③九州工大④熊本工大

■男子4部B
【順位①九州共立大②宮崎大③第一工大④久留米工大

■女子
福岡教大 34－18 福岡大
福岡教大 35－11 琉球大
福岡教大 32－17 九州女大
福岡教大 36－20 沖縄国大
福岡大 39－5 琉球大
福岡大 30－14 九州女大
福岡大 32－12 沖縄国大
九州女大 28－18 沖縄国大
沖縄国大 17－13 琉球大
琉球大 17－14 九州女大
【順位】①福岡教育大②福岡大③九州女大④沖縄国際大⑤琉球大

IHFニュース

■1999エジプト男子世界選手権　組合せ抽選会終わる

IHFの開催競技委員会の会長であるPeter Muhlematter氏は1月27日、カイロのオペラハウスで、1999年エジプト男子世界選手権の予選ラウンドの組合せ抽選を行った。結果は以下の通り。

◆Aグループ
スペイン、チュニジア、デンマーク、アルジェリア、アルゼンチン、モロッコ

◆Bグループ
ドイツ、サウジアラビア、エジプト、キューバ、マケドニア、ブラジル

◆Cグループ
ロシア、ハンガリー、クロアチア、ノルウェー、ナイジェリア、クウェート

◆Dグループ
スウェーデン、ユーゴスラビア、フランス、韓国、中国、オーストラリア

世界選手権は1999年6月1～15日にかけて行われる。開催地は、カイロ（2グループ）、ポートサイドとイスマイラである。競技日程に関する詳細は国際ハンドボール協会ならびに開催国エジプト協会より告知される。

■2001年女子ジュニア世界選手権開催はハンガリー

ハンガリーが2001年7月29日～8月12日まで開催される、第13回女子ジュニア世界選手権の開催国となる。先週末開かれた最近のIHF評議会会議は、ハンガリー協会の選手権開催について満場一致で賛成を表明した。同協会は1995年に（オーストリアと共同開催で）女子世界選手権のすばらしい組織力で名を挙げていた。

1998年度IHF総会で、フランスの男子世界選手権（2001年1月20日～2月4日）及びスイスでの男子ジュニア世界選手権（2001年8月19日～9月2日）の開催が既に決定しており、残るは女子世界選手権（2001年12月2日～16日）の開催割り当てのみとなった。

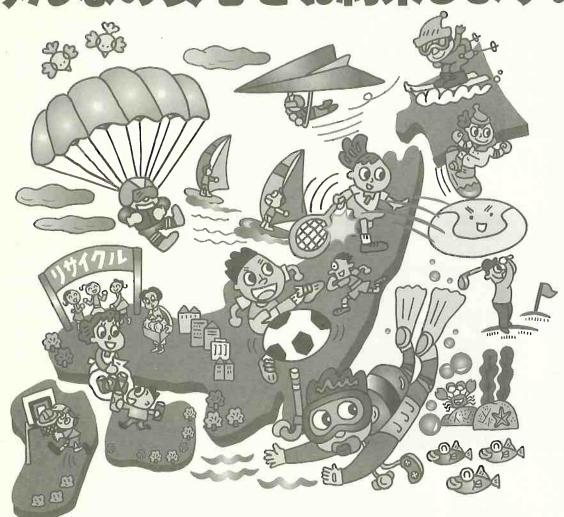
■新加盟協会　クック諸島とエルサルバトル

先週末ウィーンで開催されたIHFの評議員会は仮会員として新たにクック諸島（オセアニア）とエルサルバトル（パンアメリカ）の2協会の受け入れを決議した。定款に沿って2000年にポルトガルで行われるIHF総会ではじめて正会員として承認される。

これにより世界のハンドボール連盟の加盟数は145協会となり大陸別には、アフリカ44、アジア31、ヨーロッパ46、オセアニア5、パンアメリカ19となる。

■次回のスーパーグローブはドルトムントのWestfalenhalleで開催？

1997年にIHFによって生み出され、アジア、アフリカ、パンアメリカ、ヨーロッパ各大陸の男子ベストクラブチームを集めた大会、スーパーグローブが再び開催される見込み。IHF評議会の最新の会議で、2000年5月に第2回目の大会開催が認められた。しかしこの点に関する前提条件として、各大陸はそれぞれの現在のチャンピオンの参加確認を拘束的に行わなければならない。その場合、「クラブチームのためのワールドカップ」がドイツ、ドルトムントのWestfalenhalleで行われるが、その予備的な話し合いは既に行われている。

スポーツ安全保険は みんなの安心をお約束します。

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

※5名以上のグループで御加入ください。

区分	掛金	傷害保険（保険金額）				賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
		死亡	後遺障害	入院	通院		
子供の スポーツ活動等 成人の 文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高 3,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故5億円 (免責1,000円) 財物賠償 500万円 (免責1,000円)	突然死および日射病・熱射病による死亡 140万円
老人の スポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
成人の スポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
山岳登はん等	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

対象となる事故　●グループ活動中の事故　●往復途中の事故
保険期間　平成11年4月1日から翌年3月31日まで(申込受付は3月から)

—— 加入用紙、資料の請求、お問い合わせ ——
〒150-8050　渋谷区神南1丁目1番1号　岸記念体育会館　☎03-3481-2431

財団法人 スポーツ安全協会

保険については東京海上を幹事会社として、右記損害保険会社20社との共同保険となっております。

朝日火災　共栄火災　興亜火災　住友海上　セコム東洋　大成火災　太陽火災　第一火災　大東京火災　大同火災
千代田火災　東京海上　同和火災　日動火災　日産火災　日新火災　日本火災　富士火災　三井海上　安田火災

日本協会

販売品のご紹介

日本協会では、審判用品、競技用品、グッズ、書籍など直接販売しております。具体的品目は別表の通りですが、レフェリー技術の向上、各種大会のグレードアップ、また各種大会の記念品、賞品としてご利用いただければと考えております。

ルールブックは、ハンドボール競技を行うときの根幹となるものであり、公認レフェリーの方は勿論のこと、ルール研究のためにも、各チームにも是非1冊はご用意いただきいと願っております。

日本協会創立60周年記念誌は、発行以来多数の方にご購入いただき、また、全国の大学図書館、公共図書館にもご案内申し上げたところ、多数ご購入いただきました。この記念誌は限定制作であり、残部が少数となっております。是非この機会にご購入いただければとご案内申し上げます。品切れになりました際には、ご容赦願います。

お申し込み、お問い合わせは日本協会までお願い致します。

TEL 03-3481-2361
FAX 03-3481-2367

日本協会マーク入り置時計

日本協会制定ネクタイ

日本協会エンブレム（一般用）

▼審判用品

No.	品目	価格（単価）
1	審判手帳	700円
2	イエローカード・レッドカード	500円
3	トスコイン	1000円
4	ワッペンA・B級	1500円
5	ワッペンC・D級	1300円
6	レフェリーバッグ	2000円

▼競技用品

No.	品目	価格（単価）
1	公式記録用紙(4枚複写式)	1000円
2	チームタイムアウト申請版(2枚)	1500円
3	チームタイムアウトスタンド(2個組)	3500円
4	退場者カード表示器(2枚組)	1000円
5	ベンチ責任者マーク	500円

▼日本協会グッズ

No.	品目	価格（単価）
1	日本協会エンブレム(一般用)	3000円
2	日本協会マーク入り置き時計	850円
3	日本協会制定ネクタイ	3500円

▼書籍

No.	品目	価格（単価）
1	競技規則	1200円
2	ハンドボール競技規則必携	1500円
3	日本協会創立60周年記念誌	5000円 別途消費税＋送料

注）競技規則、ハンドボール競技規則必携は10冊以上まとめてご注文の場合は、競技規則が単価1000円、ハンドボール競技規則必携が単価1400円となります。

3月の行事予定

■日本リーグ

3月4・6・7・13・14日／各地

■日本リーグANA CUPプレーオフ

3月20日　男女準決勝／東京・駒沢体育館

3月21日　男女決勝／東京・駒沢体育館

■第22回全国高校選抜大会

3月24日～28日／大阪・大阪中央体育館

■トップレフェリー研修会

3月26日～27日／愛知・大同特殊鋼体育館

求職情報

氏名：Ryszard Slaba

住所：28277 Bremen, Soester Str. 13

ファックス：04298－1263

ポーランド国籍、49才、既婚、子供2名

ポーランド語のほかドイツ語、英語、ロシア語も得意

ハンドボールトレーナー希望

私はスポーツマン精神あふれるハンドボールプレイヤーで、1973、74年はポーランドナショナルチームの選手でした。同時に私はスポーツインストラクターの資格を取得し、1983年からハンドボールトレーナーとして旧西ドイツで働きました。

大会案内

大会名：全国ハンドボール交流大会

主　催：藤沢市ハントボール協会

期　日：平成11年7月16日～18日

会　場：秩父宮記念体育館、秋葉台体育館

種　別：一般男女の部　各16チーム

参加資格：

①市、町、村単位協会、あるいはそれと同様に編成されたチーム。

②実業団、学連、県代表選手は除く。

参加費：10,000円

申し込み：

申し込み先

〒251-0038　神奈川県藤沢市鵠沼松が岡2－10－9

山田研一宛

☎ 0466－25－2446

申込締切　平成11年6月1日　必着

HAND BALL CONTENTS MARCH

柔らかな感触で、最適なバウンド！

新発売

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH2-ADR
2,700円

PKCH3-ADR
2,800円

（財）日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第三九四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十一年二月二十六日印刷 平成十一年三月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 市原則之
価格は登録金に含む